令和5年度 教育に関する事務の点検・評価報告書

令和6年8月 亀山市教育委員会

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1	
2	点検・評価の対象となる事務・・・・・・・・・・・・・・・・・2	
3	教育委員会事務局による自己評価・・・・・・・・・・・・・・5	
4	学識経験者による評価・・・・・・・・・・・・・・・・・55	
5	課題と今後の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6 5	

1 はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定において、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないことが定められています。

亀山市教育委員会では、令和5年度における市の施策評価対象事業及び事務 事業評価対象事業について、事務局において評価を行い、その内容について学 識経験者2名から意見をいただき、課題と今後の取組について、「令和5年度 教育に関する事務の点検・評価報告書」としてまとめました。

【参考】

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

- 第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により 教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第三項の規定によ り事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況につ いて点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出す るとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たつては、教育に関し学識経験を 有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象となる事務

(1) 対象事務及び評価

点検及び評価の対象は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第21 条各号の規定のうち、「亀山市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例」に 規定された事務(「スポーツに関すること」及び「文化に関すること」)を除く事務で す。また、「文化財の保護に関すること」、「歴史博物館に関すること」、「市 立幼稚園の管理運営に関すること」等については、補助執行により市長部局にお いて実施していますので、対象外とします。

評価については、第2次亀山市総合計画後期基本計画実施計画において教育委員会事務局が所管する基本施策及びその施策の方向に伴う事業のうち令和5年度における取組状況などについて、実施しました。

【対象の基本施策】

・学びによる生きがいの創出

(基本施策の大綱:健康で生きがいを持てる暮らしの充実)

・子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実

(基本施策の大綱:子育てと子どもの成長を支える環境の充実)

【対象の主要事業】

施策の方向	事業名
地域課題の解決に生かせる学 びの展開	地域の学び推進事業
学びを支える温かさあふれる 学校づくり	放課後子ども教室推進事業
	学校施設長寿命化計画策定事業
学びの環境の充実	中学校デリバリー給食実施事業
	中学校全員喫食制給食実施事業
	学力向上推進事業
希望をもって新しい時代に活	学校図書館支援事業
躍できる子どもの育成	GIGAスクール構想推進事業
	英語教育推進事業
	個の学び支援事業 (小学校)
 一人ひとりの学びを支えるき	個の学び支援事業 (中学校)
め細かな教育の推進	生活困窮者自立支援事業(学習支援事業)
	少人数教育推進事業
	校務支援システム事業

【対象の標準事業】

施策の方向	事業名
坐がす ナンフルンシャン フ マ	特色ある学校づくり事業 (小学校費)
学びを支える温かさあふれる学 校づくり	特色ある学校づくり事業(中学校費)
K > C)	コミュニティスクール推進事業
	施設整備費(小学校費)
学びの環境の充実	施設整備費(中学校費)
	地場農畜産物利用推進事業
	体育・文化活動支援事業(小学校費)
	体育・文化活動支援事業(中学校費)
希望をもって新しい時代に活躍	中学校体験活動支援事業
できる子どもの育成	幼児教育推進事業
	教職員研修事業
	道徳・人権教育推進事業
家庭・地域の教育力の向上	子育て学習展開事業
	適応指導教室事業
一人ひとりの学びを支えるきめ 細かな教育の推進	生徒指導充実事業
//#// '\$ \$X FI \> / ILVE	特別支援教育推進事業
	外国人児童生徒教育支援事業
	青少年健全育成費
青少年の健全育成と青少年活動	青少年総合支援センター費
の促進	二十歳の集い開催費
	青少年自立支援事業
市民活動の活性化と協働の推進	婦人団体育成費

(2) 点検・評価に使用するシート

点検・評価において使用するシートは、市の行政評価との整合を図り、施策評価シート及び事務事業評価シートを活用します。

(3) 評価基準

①施策評価シートにおける総合判定及び個別判定の基準は次のとおりです。

¦ A ・・・ 順調に進んでいる

B · · · まずまず進んでいる

C · · · あまり進んでいない

D・・・・進んでいない

- ②事務事業評価シートにおける活動及び成果の判定の評価基準は次のとおりです。
 - 成果評価

A · · · 十分な成果を得た

B ・・・ まずまず成果を得た

C · · · あまり成果を得られなかった

D · · · 成果を得られなかった

*評価分類B1の事業(事業完了時など、一定期間後に効果が出る事業のうち実施中の段階の事業)の成果評価は下記のとおりです。

A · · · 計画どおり進んでいる

B · ・・ 概ね計画どおり進んでいる

C ・・・ あまり進んでいない

D · · · ほとんど進んでいない

3 教育委員会事務局による自己評価

令和5年度における第2次亀山市総合計画後期基本計画に基づく基本施 策及びその施策の方向に伴う事業について、点検・評価を実施した結果は次の とおりです。

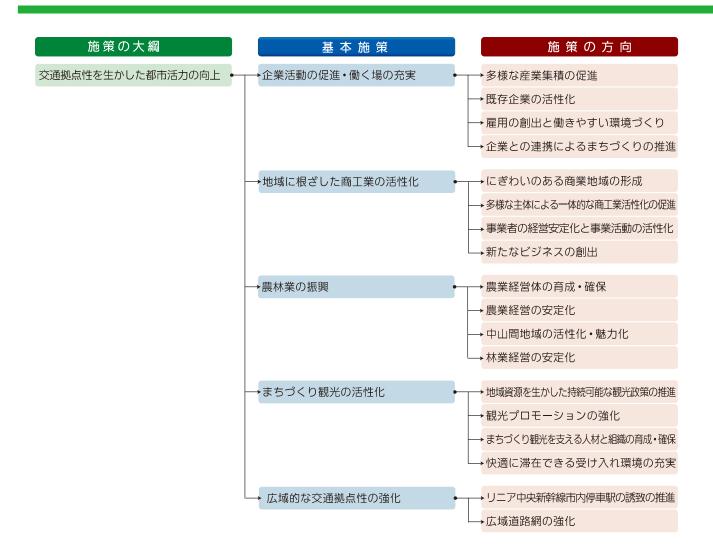
- (1) 第2次亀山市総合計画施策体系図
- (2) 施策評価 2件
- (3) 事務事業評価

実施計画/R4・5・6・7年度 主要事業14件 令和4年度決算における評価 標準事業22件

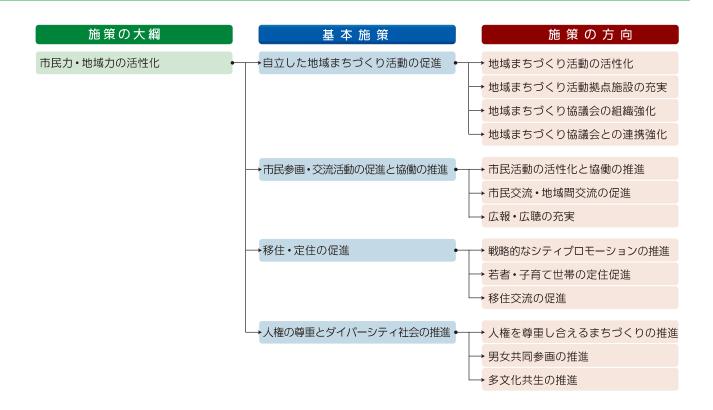
(1)第2次亀山市 総合計画施策体系図

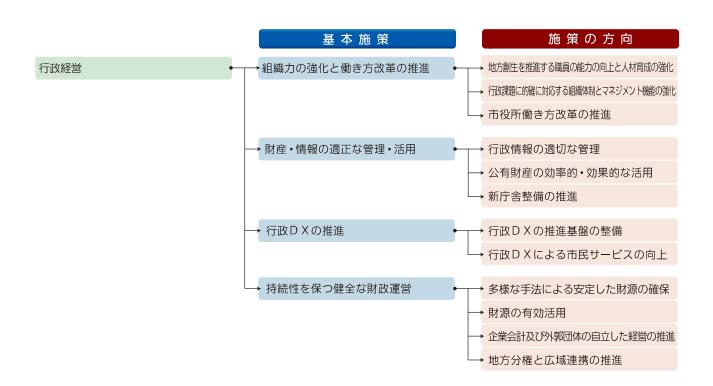
施策の大綱	基本施策	施策の方向
快適さを支える生活基盤の向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	★魅力的な都市空間の形成	→ 計画的な土地利用の推進
		→ 活力ある市街地の形成
		→ 安らぎのある都市の形成
	→住環境の向上	・ 住宅セーフティネットの確保
		→ 安全・快適な住環境の整備
		→ 空き家・空き地の対策・利活用
	→上下水道の充実	安全でおいしい水の安定供給
		→ 生活排水対策の推進
		→ 上下水道事業の健全経営
	→道路の保全•整備	・ 幹線道路の整備
		→ 生活道路の充実
		→ 安全に配慮した道路施設の充実
		→ 道路の適切な維持管理
	→ 地域公共交通の充実	→ 地域公共交通ネットワークの強化
	10.000	→ 公共交通機関の利便性向上と利用促進
	→防災・減災対策の強化	→ 危機管理体制の強化
		→ 防災環境の充実
		→ 自助・共助を基本とした防災対策の推進
		└→ 災害に強いまちづくりの推進
	→ 消防力・地域安全の充実	↑ 消防体制の充実強化
		→ 防火対策の強化
		→ 救命率の向上
		→ 防犯・交通安全対策の推進
	脱炭素社会の実現に向けた取り組みの 推進と循環型社会の構築	高度な低炭素社会の構築
		→ 生活環境の保全
		→ ごみの減量化とリサイクルの推進
		→ 廃棄物処理施設の適正管理
	→ 自然との共生	→ 鈴鹿川等源流域の保全・継承
		→ 森林・里山・農地の保全
		→ 多様な生態系の保全
		□→環境教育の推進
	→ 歴史文化を生かしたまちづくりの推進	◆ → 東海道を基軸とした歴史的風致の維持向上
		→ 関宿重要伝統的建造物群保存地区の保護の推進
		→ 鈴鹿関跡等の文化財の保存と活用
		→ 歴史資料の公開・活用による地域や学校との連携

施策の大綱	基 本 施 策	施策の方向
健康で生きがいを持てる暮らしの充実	→健康づくりの推進と地域医療の充実	• 「健康都市」の推進
		→ 健康な暮らしの支援
		→ 疾病予防と重症化予防の推進
		→ 地域医療体制の強化
		→感染症対策の推進
		→ 医療センターの機能強化と経営健全化
		→安心できる公的医療保険制度の運営
	→ 地域福祉力の向上	◆ → 地域福祉を支える人と組織の育成
		→ 安心して福祉サービスを利用できる環境づくり
		→ 地域での助け合い・支え合いの促進
		生活困窮者の支援と自立の促進
	→ 高齢者の地域生活支援の充実	◆──地域包括ケアシステムの推進
		→介護予防の推進
		→ 高齢者の生活と生きがいづくりの支援
		→認知症高齢者等対策の推進
	→障がい者の自立と社会参加の促進	●
		→ 障がい者の福祉サービスの充実
		誰もが暮らしやすい社会の実現に向けた取り組み
	一・学びによる生きがいの創出	→ 地域課題の解決に生かせる学びの展開
		→ 新図書館を核とした読書活動・市民活動の推進
		→誰もが学べる環境づくり
	→ 文化芸術の推進	◆──→文化芸術施策の推進
		→ 文化芸術の拠点づくり
		→文化芸術活動の活性化
	→ スポーツの推進	→ スポーツ活動の推進
		→ スポーツ団体の育成と競技力の向上
		→ スポーツ文化の浸透
		→ スポーツの拠点づくり









(2)施策評価シート

		基本施策の大綱	基本施策
4	2	健康で生きがいを持てる暮らしの充実	学びによる生きがいの創出
4	4	子育てと子どもの成長を支える環境の充実	子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実

令和5年度 施策評価シート

施策の大綱	2. 健康で生きがいを持てる暮らしの充実	評価担当者		
基本施策	(5) 学びによる生きがいの創出	教育部長 亀山 隆		
目指す姿	市民が豊かに学び、それぞれの学びの成果によって、地域社会で活躍しています。			
関連する分野別計画	亀山市生涯学習計画			

■SDGs

基本施策に関連する SDGsのゴール	4 第の高い信息を 利力 パーピーシップで 日間を考慮しよう
SDGs推進の考察	「社会的包摂」の視点から、誰もが均質に学ぶ環境創出に向けての取り組みであると認識している。また、個々の学びはその個人に回帰するものではなく、その成果が社会の中で生かされ、地域連帯を深めていくものと認識しており、SDGs推進に寄与するものと考えられる。

■関連する主な事業 (単位:千円)

			(113)
施策	事業名	上段:予算額	実績·成果等
の方向	于木 石	下段:決算額	
1	地域の学び推進事業	15,800 14,685	中央公民館講座は、学びの機会を提供し、多種多様な講座を実施した。また、 かめやま人キャンパスは、地域の学びの担い手を養成する講座を設定し、展開 することができた。
	 亀山市立図書館施設管理事業	169,450	令和5年度は276,338人の入館者数があった。また、きめ細やかなサービスの
2	亀山市立図書館運営事業	143,728	提供に努め、読書に親しんでもらうためのイベント開催や環境を整備することにより、読書活動の推進ができた。
			大字: 主要事業

太字:主要事業

■成果指標

指標 単位		現状値		実績値 R4 R5 R6 R7			目標値		
1	デジタル技術を活用した講座の開催数	回	8	R2	1	6	110	107	20
2	図書館入館者数	人	61,500	R2	90,583	276,338			230,000
3									
4									
5									
6									
7									
8									·

■市民アンケート調査

項目			現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1	生涯学習講座が充実している	重要度	0.81 0.15	0.85 0.23		いずれの調査項目においても令和2年度調査時よりも重要度・満足度が向上している。コロナ禍を経
2	公民館などの施設や行事内容が充実して いる	重要度 満足度	0.68 0.04	0.75 0.07		過した学びの展開と新図書館開館が市民の生涯 学習意識に反映したものと考えられる。
3	図書館が充実している	重要度 満足度	0.91 A 0.14	1.07 0.90		
4		重要度 満足度				

■施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
(1) = :::::: - :::::::	「かめやま人キャンパス」を開催するとともに、「かめやま人」認定者の支援を行い、人材育成を 展開している。 今後も、 更なる学びの循環による人材育成を展開していく。
	ボランティアの協力等により、市民の読書活動の推進を図った。図書館が市民交流の場となる 利用しやすい環境を創出し、きめ細やかな図書館サービスの提供を進める。
(3) =1++,か)'ラ'へ'ん+古(百゚)(り	学びの情報を一元化した学びのガイドブックを発行するとともに、中央公民館講座等を開催し、 市民に学びの機会を提供した。今後も、学びの機会の充実を図る。
4	
⑤	
6	
7	

総合評価

地域課題の解決に生かせる学びの展開については、「かめやま人キャンパス」の第2期への展開を図ることができた。この中で、「まちのインフルエンサー養成講座」「まちのせんせい養成講座」は地域情報の発信と地域資源の掘り起こしをテーマとしたものであり、地域に直結する学びとして地域活動への展開が期待できる。また、すでに認定された「かめやま人」の交流とフォローアップのためのミーテングなどを通じて、行政委員や中央公民館講座講師への登用も行われている。このように、「かめやま人」が実際に地域づくりに寄与する学びが展開できたことは大きな成果であったと考えている。成果指標としているデジタル技術を活用した講座は、誰もが等しく学べる「社会的包摂」の視点での学びの環境づくりについて、引き続き模索を重ねていく必要がある。コロナ禍で激減した学びの参加者総数については順調に復活しているが、その流れの中で学びの成果により地域の課題解決に参画し、地域における自己有用感によって生きがいを見出すことをより強く打ち出していくための実践的検証が必要である。図書館については、今和5年度で276,000名を超える入館を得て、学びと交流の中核拠点であるとともに誰もが利用できる市民の居場所空間としての定着ができている。図書館独自に構築した管理運営評価では、より良質のサービス提供と市民の居場所として評価できる一方で、地域情報発信や子どもの読書活動推進に改善の余地がある。また、中・高校生の利用は旧館と比べて大幅に増加しているが、学習や同世代交流の場としての利用が多いとみられ、読書活動や地域への参画促進の視点からの展開が必要である。



順調に進んだ

今後の展開方針

「学びのカタチ」が確立されている中で、自己完結型とならないように学びの目的を明確にしたうえで、かめやま健康都市大学との連携や中央公民館での学びの構成を精査していく。この中で、これまでの学びの提供数に固執せずに公が提供する学びとは何かに立ち返って次年度の学びの企画を進めていく。また、図書館については若年層に的を絞った市民読書活動推進とともに、子どもの図書館での学びと体験活動が読書活動に結びついていくようにその具体的な方策についてプロジェクトチームでの共有を図りながら進めていく。さらに図書館利用状況の実態に即した管理運営の在り方を構築するために、地域課題に対応した蔵書計画や図書館サービス計画の改定、委託業務などの更新を見据えて曜日や時間ごとの利用動向や休館日における休憩コーナーなど具体のデータ収集を行います。

令和5年度 施策評価シート

施策の大綱	4. 子育てと子どもの成長を支える環境の充実	評価担当者
基本施策	(1) 子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実	教育部長 亀山 隆
目指す姿	子どもたちが、豊かな学びのもと、未来を創るための力を身に付けて	います。
関連する分野別計画	亀山市学校教育ビジョン	

■ SDGs

基本施策に関連する SDGsのゴール	4 **のおい後記を 16 **和企正本 17 **(中ゥナーシップで
SDGs推進の考察	個の学び支援事業や学習支援事業は「誰も取り残さない学びの保証」に直結する取組であり、均質な学びの提供が公正な社会構築の起点になるものである。また、家庭・地域と連携した地域における子どもの居場所づくりや学校運営協議会の展開は「地域学校協働活動」につながるものであり、地域全体が主体者となる取組をめざしているものである。

■ 関連する主な事業 (単位:千円)

■関連で	する主な事業		(単位:千円)
施策	事業名	上段:予算額	実績・成果等
の方向	尹未石	下段:決算額	
	放課後子ども教室推進事業	13,319	全小学校で放課後子ども教室を実施することができた。地域で子どもの体験学習や地域の大人の交流活動を通じて、地域の中で子どもが育まれる居場所を
0		11,896	つくることができた。
_	学校施設長寿命化計画策定	4,990	各学校等施設の劣化状況等について概ね把握することができ、今後の施設の
0	事業	4,989	適正管理と計画的な修繕や改修等を実施する目安となる計画を策定すること ができた。
	中学校デリベリー給食実施事	47,400	年間181回の実施により、必要な回数の給食を実施することができた。生徒対
0	*	47,254	象のアンケートを実施し、委託業者との打合せと新メニューの取り入れにより、 献立内容の改善を図った。
	中学校全員喫食制給食実施	0	France France
0	事業	0	実施に係る基本的な計画」を策定し、当該事業の方向性を示すことができた。
	W 1 4 1 19 46	1,800	 教職員の授業力向上を図る研修会を行い、プリント等で児童生徒への学習理
3	学力向上推進事業 	1,549	解を深めた。運動部活動支援員の登録により、教職員の研究等ができた。
	W I	14,629	図書館活用アドバイザーの配置により、児童生徒の読書習慣の確立や読書の
3	学校図書館支援事業 	14,182	質の向上につながる取組ができた。 園や小中学校で、親子読書リルーや読書 チャレンジの取組も実施した。
		61,079	学校の情報教育環境を整備できた。家庭学習でのタブレット端末の活用が向上
3	GIGAスクール構想推進事業 	60,156	した。情報モラルに関する授業の指導・助言を行った。 児童生徒の情報活用能力が向上した。
	## == ## ## [19 A17 c == 170	29,575	ALTの配置により、児童生徒にネイティブな英語に触れる機会を設定することが
3	英語教育推進事業 	28,859	√できた。英語キャンプを実施した。英語外部試験等を実施し結果を分析し、授 業改善を図った。
		82,550	小学校において、介助員、看護師及び生活支援員を継続配置し、児童の学習
©	個の学び支援事業(小学校) 	81,995	面、生活面、活動面において必要な支援を行うことができた。
		17,600	中学校において、介助員及び学習生活相談員を適切に配置し、特別な支援が
⑤	個の学び支援事業(中学校) 	16,976	必要な生徒に丁寧に対応することができた。
	生活困窮者自立支援事業(学	4,144	 定期的な学習教室の開催や不定期のテスト対策教室の開催等により、児童生
©	習支援事業)	3,321	徒の学習環境が整い学習習慣の確立と学習内容の定着につなげた。
	1. 1 40 40 10 10	20,210	→ 人数教育推進教員の配置により、習熟度別授業やティームティーチング、個
<u>©</u>	少人数教育推進事業 	19,502	別支援等、児童生徒の実態に応じた指導の充実を図ることができた。
		3,806	│ 各小中学校において、校務支援システムを活用して業務を行うことができた。シ
(3)	校務支援システム事業 	3,806	ステム活用に係る研修会を7回実施し効率的に業務が進められるようにした。
	* 標準事業は別紙参照		

太字:主要事業

■ 成果指標

	指標		TB /	 犬値		実終	責値		目標値
	14 1示	単位	坎1	人但	R4	R5	R6	R7	日保旭
1	コミュニティ・スクールだより等を作成し、地域への 情報発信を年間3回以上行っている学校の数	校	8	R2	11	13			14
2	学校評価アンケートにおける授業理解度 (小学校)	%	90.0	R3	90.0	90.2			92.0
3	学校評価アンケートにおける授業理解度 (中学校)	%	85.8	R3	87.2	88.3			89.0
4	「かめやまお茶の間10選(実践)」アンケートにおける取り組んだと回答した保護者割合	%	52.0	R2	66.0	64.7			70.0
5	学校評価アンケートにおける学校満足度 (小学校)	%	93.4	R3	91.1	92.4			95.0
6	学校評価アンケートにおける学校満足度 (中学校)	%	91.2	R3	94.1	93.1			95.0
7	「亀山っ子」市民宣言についてのアンケートにおける目指 す子ども像について実感があると回答した割合	%	24.4	R2	28.9	31.1			30.0
8									

■ 市民アンケート調査

	項目		現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1	小中学校の施設や設備が整っている	重要度	1.40 0.43	1.46 0.32		各項目の重要度が上がっている一方で満足 度は若干下降している。個々の理由は想定
2	 学校教育の内容や取組が充実している	重要度	1.42	1.51		できるが保護者層を中心として多様な見方
		満足度	0.26	0.24		】がある中で要求レベルが上がったことから現 】状に対しての認識変化と捉えることができる。
3	青少年を見守り応援する活動が行われている	重要度 満足度	1.34 0.52	1.38		1人に対しての心略を記されることができる。
	-	重要度		7413		
		満足度				

■ 施策推進「施策の方向]

	施策の方向	施策推進に関する考察
0	学びを支える温かさあふれる学校づく り	学校運営協議会を核として、地域と協働し学校づくりをすすめた。今後も地域や学校の特性をいかし、安心して学べる環境を整えていく。
0	学びの環境の充実	学校施設等の実態調査の結果を基に学校施設等長寿命化計画の策定を行うとともに、中学校 全員喫食制給食実施に係る基本的な計画の策定を行った。
3	希望をもって新しい時代に活躍できる 子どもの育成	児童生徒一人ひとりが学ぶ楽しさや分かる喜びを実感できる授業改善を図った。 今後も子どもたちの社会的自立を目指した取組を推進していく。
4	家庭・地域の教育力の向上	「かめやまお茶の間10選(実践)」の取組を行い、家庭生活を通じて基本的な生活習慣を身に付けられるよう意識啓発を図った。今後も継続して意識啓発を図る。
(3)	一人ひとりの学びを支えるきめ細かな 教育の推進	子どもの特性や事情に配慮した学びの機会の確保に努めた。 今後も一人ひとりの悩み等に配慮 したきめ細かな指導を行っていく。
6	青少年の健全育成と青少年活動の 促進	地域・福祉・教育の連携による青少年の自立支援や見守り体制の強化に取り組んだ。今後も関係機関等との連携を強化し、青少年の自立支援や見守り体制の強化を図る。
Ø		

総合評価

学びを支える温かさあふれる学校づくりでは、学校運営協議会が実効的に地域と共にある学校づくりに関わることで地域全体で子どもを育む亀山市の特性が生かされたと考える。学びの環境の充実では、学校施設の長寿命化計画を策定し、中・長期的な展望での学校施設改修に向けた優先度の把握が可能となった。中学校全員喫食制給食実施については基本的な計画を策定し、外部調理委託食缶搬入方式により実現を目指す方向が決定できたことは大きな画期となった。希望をもって新しい時代に活躍できる子どもの育成では、一人一台端末を学びの場における活用の実践を通じて各校が工夫して個別最適な学びの展開を進めたことが、微増ながら授業理解度が向上したと考えられる。家庭・地域の教育力の向上では、「かめやまお茶の間10選(実践)」の定着が地域全体で子どもの育みを取り巻く視点につながりつかると考えられる。一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進では、多様化する教育課題に対して部活動の地域移行も含め教職員の負担軽減が継続的な課題となっているが、個の学びを接事業やいじめを許さない学校風 出の職成とその早期の対応の強化、外国籍児童となっているが、個の学びを支ない学びの保証が進められている。一方で、依然として不登校児童生徒数が増加しているが、図書館でのサークルルームの開始や各校でのふれあい教室の設置推進による居場所づくりが進められた。青少年の健全育成と青少年活動の促進は、令和6年度こども未来部の創設に向けて青少年総合支援センターのあり方を検証し福祉と連携した実効的な青少年支援体制の構築を行った。総体としていくつかの大きな教育課題の取組の方向性は示しえたが成果については途上にある。



まずまず進んだ

今後の展開方針

教育環境の整備、教職員の働き方改革、多様な居場所づくり、新しい枠組みでの青少年支援の体制づくりなど、様々な教育課題に対しての方向性を示しえた。これまでの取組を踏まえてこれらの教育課題を実効的に展開するために改めて教育施策全般の優先度を抽出し、これに即して注力を行う。この過程においては、教育に対しての市民理解を深め、児童・生徒・保護者のニーズを的確に把握する手法を確立するとともに、学校の統廃合を行わない方向性の下で学校をまたいだ授業や交流活動などの実証的試行を重ねていく。同時に一つひとつの教育課題に対して地域や関係機関、学校間の連携体制を構築し子ども未来部と一体的な施策展開を図っていく。この中で、地域の教育力の再構築を図り児童生徒の生活習慣などの文化的貧困に起因する教育格差解消など中長期的な教育展望を見据えていく。

■ 関連する主な事業 (単位:千円)

■ 関連	する主な事業		(単位:千円)
施策 の方向	事業名	上段:予算額 下段:決算額	実績·成果等
0272 [-]		0.000	 学校運営協議会を中心に、地域や学校ならではの創意工夫をいかした特色あ
0	特色ある学校づくり事業(小学校費)	0.700	る学校づくりを推進した。また、ゲストティーチャーを招いて体験学習活動や学力向上など多岐にわたる内容の取組を進めた。
0	特色ある学校づくり事業(中学校 費)	760 734	学校運営協議会を中心に地域や学校ならではの創意工夫をいかした特色ある学校づくりを推進した。 ゲストティーチャーを招いて体験学習活動や学力向上など多岐にわたる内容の取組を進めた。
0	コミュニティスクール推進事業	1,060 818	定期的に学校運営協議会を開催し、たよりを発行することで、活動内容等を周知することができた。
②	施設整備費(小学校費)	37,033 37,001	 亀山東小学校体育館屋根改修や関小学校防犯カメラ改修等、予定していた工事を執行し、学校生活環境の向上を図った。
Ø	施設整備費(中学校費)	615	中部中学校体育館電源増設工事及び関中学校留守番電話取付工事を執行 し、学校生活環境の向上を図った。
②	施設整備費(幼稚園費)	8,788 8,788	┃ 土壌整備工事(井田川)、ログハウス設置工事(亀山・井田川・みずほ台)等、公 立幼稚園の施設改修等を実施することで、保育環境の向上を図ることができ
	11.11.11.11.11.11.11.11.11.11.11.11.11.	,	た。 市内・県内産の食材を多用した「かめやまっ子給食」を22回実施した。また、給金部開展を対象に変せ、無限の関係をよる同事性は、研修後は作業を
②	地場農畜産物利用推進事業		食調理員対象に衛生管理と調理実習の研修会を2回実施し、研修後は作業工程や調理器具の点検を行い、各学校現場での改善につなげることができた。
3	体育·文化活動支援事業(小学校費)	1,289 1,208	を行った。また、幼児や児童の体力向上をめざし、各園・各校に専門性のある外部講師を派遣した。
3	体育·文化活動支援事業(中学 校費)	291 262	亀山市文化会館と連携し専門家を招聘し合唱指導の機会や様々な文化公演を行った。また、幼児や児童の体力向上をめざし、各園・各校に専門性のある外部講師を派遣した。
3	中学校体験活動支援事業	980 899	全ての中学校で就労体験を実施した。亀山中学校と岡山県高梁中学校との交流を行った。
3	幼児教育推進事業	2,080 1.776	保幼認小間の切れ目のない教育をめざし、教職員が連携し、情報共有することで、きめ細やかな支援体制を整えた。 各園の若年職員等の指導のための園訪問や研修会を行った。
3	教職員研修事業	1,430	基本研修を12回、授業力向上研修を16回、教育課題別研修を14回開催した。各校への外部講師や市教推各研究部の講師を計画的に派遣し、教職員の 主体的な研修を支援した。
3	道徳·人権教育推進事業	490	差別事象の把握や人権・道徳に関わる各校への助言等、従来の取組に加え、 亀山市人権教育推進協議会の組織体制の確立、県の人権校育アライメント事業を受け、研究指定した中学校区と県立学校が協働して人権教育の実践研究を進めた。
4	子育で学習展開事業		保育園等において、保護者対象の家庭教育出前講座を行った。また、小中学校では、家庭・地域の教育力事業として、家庭での学習に関する指導・啓発に関する講演を実施した。
©	適応指導教室事業	11,030 10,967	適応指導教室で児童生徒と保護者への相談を行った。教職員のスキル向上のため、研修会を開催した。子どもの居場所づくりのために「かめっ子サポート」に委託し体制強化を図った。
©	生徒指導充実事業	2,050 1,910	学校からの要請により、指導主事やスクールカウンセラー。スクールソーシャル ワーカーを学校に派遣し、児童生徒の心のケアや関係機関との連携を進めた。
©	障がい児支援事業	14,462 10,362	公立幼稚園に在籍する支援が必要な園児に対し、介助員等の職員を加配することで、教育環境の充実を図ることができた。
⑤	特別支援教育推進事業	336 331	亀山市教育支援委員会を年間4回開催し、特別支援学校や特別支援学級、通 級指導教室など、個に応じた学びの場への就学について、就学先の決定につな げることができた。
⑤	外国人児童生徒教育支援事業	2,990 2,836	外国人児童生徒のいる学校へ外国人児童生徒支援員の配置とボランティアの 派遣を行った。就学前の幼児や保護者に向けてプレスクールを開催したり、中 学校卒業後の進路ガイダンスを開催したりした。
6	青少年健全育成費	4,710 3,951	令和5年8月23日~25日に青少年体験活動サマーキャンプを実施した他、各社会教育団体の事業のサポート及び補助金を交付手続きを行った。
6	青少年総合支援センター費	13,720	 補導員により児童・生徒の登下校時等のパロールを実施し、不審者情報などについて、迅速に特別パロール対応とした。また、各地域の非行防止部会等と合同パロールを実施した。
6	二十歳の集い開催費	600	同ハトロールを実施した。 令和6年1月7日に「二十歳の集い」を開催し、青少年の社会へ踏み出す第一歩 のきっかけづくりに寄与した。
6	青少年自立支援事業	4,566 4,500	 支援員による地域・学校など関係機関と連携した活動により、青少年の相談や 自立に向けた支援を行った。

(3)事務事業評価シート

	体系コード	計画コート	事業名	課グループ名
	020501	22057	地域の学び推進事業	生涯学習課社会教育G
	040101	22073	放課後子ども教室推進事業	生涯学習課社会教育G
		22074	学校施設長寿命化計画策定事業	教育総務課教育総務G
	040102	22075	中学校デリバリー給食実施事業	教育総務課保健給食G
主		22076	中学校全員喫食制給食実施事業	教育総務課教育総務G保健給食G
土		22077	学力向上推進事業	学校教育課教育支援G
要	0.401.00	22078	学校図書館支援事業	学校教育課教育支援G
事	040103	22079	GIGAスクール構想推進事業	学校教育課教育研究G
عالد		22080	英語教育推進事業	学校教育課教育支援G
業		22081	個の学び支援事業(小学校)	学校教育課学事教職員G
		22082	個の学び支援事業(中学校)	学校教育課学事教職員G
	040105	22083	生活困窮者自立支援事業(学習支援事業)	学校教育課教育支援G
		22084	少人数教育推進事業	学校教育課学事教職員G
		22085	校務支援システム事業	学校教育課学事教職員G
		19148-1	特色ある学校づくり事業(小学校費)	学校教育課教育支援G
	040101	19149-1	特色ある学校づくり事業(中学校費)	学校教育課教育支援G
		19182-1	コミュニティスクール推進事業	学校教育課学事教職員G
		19008-1	施設整備費(小学校費)	教育総務課教育総務G
	040102	19027-1	施設整備費(中学校費)	教育総務課教育総務G
		19273-1	地場農畜産物利用推進事業	教育総務課保健給食G
		19015-1	体育•文化活動支援事業(小学校費)	学校教育課教育支援G
		19030-1	体育・文化活動支援事業(中学校費)	学校教育課教育支援G
標	040103	19033-1	中学校体験活動支援事業	学校教育課教育研究G
	010100	19105-1	幼児教育推進事業	学校教育課教育支援G
準		19106-1	教職員研修事業	学校教育課教育研究G
事		19271-1	道德·人権教育推進事業	学校教育課教育研究G
業	040104	19132-1	子育て学習展開事業	生涯学習課社会教育G
术		19111-1	適応指導教室事業	学校教育課教育研究G
	040105	19116-1	生徒指導充実事業	学校教育課教育研究G
	0 10100	19259-1	特別支援教育推進事業	学校教育課教育研究G
		19286-1	外国人児童生徒教育支援事業	学校教育課教育支援G
		19099-1	青少年健全育成費	生涯学習課社会教育G
	040106	19100-1	青少年総合支援センター費	生涯学習課社会教育G
		19101-1	二十歳の集い開催費	生涯学習課社会教育G
		19289-1	青少年自立支援事業	生涯学習課社会教育G
	050201	19047-2	婦人団体育成費	生涯学習課社会教育G

₹ - 5±1.2	は、ドベーダー		二 二 二 二		作用 共生が近り 洋生					2米 / / 五/ 小三	· <
		/ 6077	+ - 		FO推進事業					計画分類	- ¥
\bigcirc	事業手法	□ 直営	一部委託 🗌 🗈	託口	補助等	□ その他(
	施策の大綱	02:健康で生きが	02:健康で生きがいを持てる暮らしの充実	の充実		外	会計 01:一船	·般会計		川田	担当部署
	基本施策	05:学びによる生きがいの創出	∃きがいの創出					事		中 粉杏米 四	吕心重数日
事品体工	施策の方向	01:地域課題の	01:地域課題の解決に生かせる学びの展開	びの展開		本 [05:社会教育費		Ϋ́ E	云丰作为问
	重点プロジェケ	łυ	ナ」プロジェクト				目 03:公民館費	已館費		生涯学習課	點
	事業期間	H 29 年度	₹ ~ R	年度 三	主な根拠法令等	- + + -					g
(2)	事業の必要性(経緯・背景等)	韋·背景等)	事業の対	事業の対象(誰に、何に対して)	なして)	事業の目的	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	こしたいのか)	事業の内	事業の内容(どのような取組を行うのか)	のか)
事業概要(り)令で持題を、持續問	令和元年度から、かめやま人キャンパスを核として、学びの循環による人材育 成を展開しており、持続的な地域づくりを推進するためには、地域課題に取り組む 人材の育成が不可欠である。	キャンパスを核と 成を展開しており るためには、地域 ろ下可欠である。	に 出			市民一人ひとり7 得るとともに、学 解決に取り組む。 していく。	市民一人ひとりが学びを通して新たな生きがいを 得るとともに、学びの成果を生かして地域課題の 解決に取り組むことで、持続的な地域づくりを推進 していく。	たな生きがいを 、て地域課題の 地域づくりを推進	公民館においては、学 多様な講座を実施す。 1期とした実践的な学! む「かめやま人」の育成 の支援を行う。また、学 した誰もが参加できる ⁴	公民館においては、学びの入り口として、市民ニーズにあった多種 多様な講座を実施する。かめやま人キャンパスにおいては、3年を 1期とした実践的な学習カリキュラムを通して、地域課題に取り組む、かめやま人」の育成を行うとともに、「かめやま人」に対する活動の支援を行う。また、学びの情報の一元的な発信や、「C1等を活用した誰もが参加できる学びの環境の整備を行う。	 て、市民ニーズにあった多種キャンパスにおいては、3年をを通して、地域課題に取り組ま、「かめやま人」に対する活動一一元的な発信や、IOT等を活用整備を行う。
	年度 在度			年度		会和5年度	垂		1 令和6年度		単
	<u> </u>	Ф О	〇かめやま人キャンパス講座の実施	ス講座の実施	のかめや	○かめやま人キャンパス講座の実施	、講座の実施	○かめやま人キー	○かめやま人キャンパス講座の実施	〇かめやま人キャンパス講座の実施	ス講座の実施
24	事業計画		○公民館講座の実施 ○亀山学びのガイドブックの発行 ○学びの環境の整備	ックの発行	() () () () () () () () () () () () () (○公民館講座の実施 ○亀山学びのガイドブックの発行 ○学びの環境の整備	7の発行	○公民館講座の実施 ○亀山学びのガイドブックの発行 ○学びの環境の整備)実施 イドブックの発行 整備	○公民館講座の実施 ○亀山学びのガイドブックの発行 ○学びの環境の整備	ックの発行
@		<u> 中ソ -</u> ポ ぶ †	中央公民館講座等及びかめやま人キャ 中・ ンパス講座を実施し、学びの機会を提供 ン/ +	なびかめやま人 ³ 学びの機会を振	キャ 中央公臣 供 ンパス講 - +	ら館講座等及び 座を実施し、学	央公民館講座等及びかめやま人キャ パス講座を実施し、学びの機会を提供 L				
) 	活動実績	20.	יווויוד	·業 82回	(2/2 (2/2) (2/4) (4/4) (4/4)	#	5業 132回				
の実施状	(計画通り実施できたか)		・出前教室の開催 119回○かめやま人キャンパス展開事業・かめやま人キャンパス講座の開催 開催数 19回	119回 ペス展開事業 ペス講座の開催	H. C.	・出前教室の開催 86回○かめやま人キャンパス展開事業・かめやま人キャンパス講座の開催 開催数 15回	86回 ス展開事業 ス講座の開催				
兴(7	かめやま人認定者	7人	(第1期	第1期:かめやま人認定者	(江者 17人)				
Д_	事業費		16,400千円	16,300千円		16,400千円	15,800千円	16,500千円	E	16,500千円	
		纽		田十0	田						
画!	算 地方債			田十0	E						
	類 その他		820千円	820千円	E	820千円	820千円	820千円	Ē	820千円	
	一般財源		15,580千円	15,480千円	1	5,580千円	14,980千円	15,680千円	Œ	15,680千円	
	事業費			13,953千円	田		14,685千円				
水		ΛЫ.		田士0	Æ						
無	·			田士0	Æ						
剱	-1			423千円	Œ		619千円				
		ì		13,530千円			14,066千円	•			i d d d
	①期間内計画額(K4-/)	(/		日士008'69		2)期間外計画額(K8-		<u>+0</u>	0千円 (1)+(2)総計画額	()	日士008'69

(令和5年度予算額の内訳)

田十0	次年度への繰越額
15,800千円	当年度の最終予算額
田士0	前年度からの繰越額

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
二甲苯苯苯	館及びかめやま人	计型	華市	計画値	4	2	9	7
同寺教員依実に建筑した開発	等教育機関(大学や高校など)と連携した	加	出	実績値	3	വ		
条件 医多类形式 化苯基甲基苯基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲	条件 無因 分 班 并 群 计 下 为 " 、 " 、 " 、 " 、 " 十 一 十 入 之 不 。	田 七	1	計画値	10,000		14,000	16,000
计低子可谓符 对锡色	兄弟・2、8ノイカノイイン、1.1.女正記事任中の文部	<u>₩</u>	<	実績値	2,263	19,318		
				計画値				
				実績値				

事業の目的	市民一人ひとりが学びを通して新たな生きがいを得るとともに、学びの成果を生かして地域課題の解決に取り組むことで、持続的な地域づくりを推進していく。
事業の対象	市民
	()

事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか

⑤成果(

 \circ

第2期かめやま人キャンパスにおいて、学ぶ内容が深まっていくステップアップ方式のカリキュラム「まちのインフルエンサー」「まちのせんせい」養成講座の3年間を1期とする初年度に当たり、SNSを活用した情報発信方法や、Youtubeを使った指導方法等の講座を展開することにより、現代社会のニーズに即応した新しい学びの場を提供することができた。また、第1期「かめやま人」認定者を中央公民館講座の講師や、行政委員として登用するとともに、フォローアップ講座についても実施し、学びを通した生きがいづくりと、地域課題の解決に取り組む人材の育成・確保につなげることができた。 十分な成果を得た

かめやま人の今後の活動を支援するため、中央公民館や行政関連部署・各関係団体と連携するとともに、九めやま人キャンパスの諸活動の発信を行う必要がある。また、かめやま人のフォローアップ講座についても継 事業の達成状況等を踏まえた課題事項 続して行っていく必要がある。



方向性	現状どおり事業を継続する	改善・見直し内容
	継続(現状維持)	

かめやま人を対象にフォローアップ講座を開催するとともに、行政関連部署や各関係団体と連携しやすい土壌を形成するため、かめやま人キャンパスや中央公民館講座などの展開の他、かめやま人の活動を周知し活動の場を広げてい ⑦事業の展開(

令和6年度で対応する(した)もの

かめやま人のフォローアップを継続して行うとともに、かめやま人キャンパスと公民館事業を基軸に様々な学びを提供し、各講座の充実を図る。

令和7年度以降で対応するもの

継続(現状維持) ⋖ 継続(現状維持) ⋖ 成果判定 事業展開

令和7年度

令和6年度

令和5年度

令和4年度

履歴】

教育委員会事務局 生涯学習課 社会教育GL 草川 正富	事務局 生涯学習課長 落合 努
教育委員会事務局	教育委員会事務局
1次評価者	

() 異題

O)

		0.000	1 1 1	1 C %/ H= 7+	**********	# 1					***
		77073	·* [、 深 (別 (別 (別 (別 (別 (別 (別 (別 (別 (別	こも教学推進事業に発展している。	事業1				平自分類	A
\bigcirc		-	一部委託 □ 		補助等	その他(Ì				
	施策の大緇	04:子育てと子ども	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実	{境の充実			会計 01:一般会計	冷計		甲	担当部署
本紙		01:子どもたちの書	: 子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実	を支える環境の充	獣	· 博	10:教育費	遺		2	吕心事数已
		01:学びを支える	01:学びを支える温かさあふれる学校づくり	校づくり			項 05:社会教育費	教育費		炎 正 対	! 云事伤问
	.分	-				ш	目 01:社会	01:社会教育総務費		= 生涯学習課	喜 課
	事業期間	H 19 年度		年度 主	主な根拠法令等	1					夏
0	事業の必要性(経緯・背景等	章·背景等)	事業の対象(誰に、	象(誰に、何に対して)	(7)	事業の目的(事業の目的(どのような状態にしたいのか)	したいのか)	事業の内	事業の内容(どのような取組を行うのか)	うのか)
	次代を担う人材を育成するため、全ての就学児童が放課後を安心・安全に過ごし、多様な体験活動を行うことができるよう、地域住民の参画を得て総合的な放課後対策に取り組む必要がある。	:め、全ての就学児 3ごし、多様な体験 地域住民の参画を 取り組む必要があ	小学生		出流し後 対流温圧	<u>ずでの子どもの</u> 舌動などを通じ 過ごすことができ Fども教室」を ⁸	地域での子どもの体験学習や地域の大人との交流活動などを通じて、地域の中で子どもが安心して過ごすことができる居場所づくりのため、「放課後子ども教室」を継続的に実施していく。	tの大人との交 子どもが安心し カため、「放課 ていく。	全小学校区において、 ともに、 放課後児童ケラ 人との交流活動を通じ 創出する。	全小学校区において、放課後子ども教室の持続的な運営を行うとともに、放課後児童クラブと十分な連携を図り、体験学習や地域の人との交流活動を通じて、児童が安心して過ごすことができる場を創出する。	続的な運営を行うと 体験学習や地域の すことができる場を
	年度		令和4年度	:度		令和5年度		∀	令和6年度		'年度
26	事業計画	〇〇 英	○ 放課後子ども教室の運営○ 放課後児童クラブとの連携	運営の連携	○ 放課後子 ○ 放課後 ○ 放課後 ○ 放課	○ 放課後子ども教室の運営○ 放課後児童クラブとの連携		○放課後子ども教室の運営 ○放課後児童クラブとの連携	教室の運営 7ラブとの連携	○放課後兄童クラブとの連携 ○放課後児童クラブとの連携 	の運営との連携
◎塘業€	活動実績	#	新型コロナウイルス感染症の影響もあっ。各小学校の実情にたが、各小学校の実情にたが、全小学校 おいて実施できた。区において計画どおり実施できた。開催回数 1,096回 勢加者人数 13,123人	染症の影響もあ っ に応じ、全小学材 ぎ施できた。 人	つ名小学校の実情に応じなおいて実施できた。 財催回数 1,329回参加者人数 16,166	赤に、 画 166人	全小学校区に、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、				
の実施状況((計画通り実施できたか)	(\$\psi\)									
<u> </u>	事業費		15,100年円	12,884年円		15,100千円	13,319千円	15,100年円		15,100千円	
	子 国·県支出金	HV	10,000年円	8,588千円		10,000年円	8,879丰田	10,000年円	£	10,000年田	
圖	算 地方債			0千円							
	額			日十0							
	一般財源		5,100千円	4,296千円		5,100千円	4,440千円	5,100千円	£	5,100千円	
	事業費			10,250千円			11,896千円				
从	F 国·県支出金	√Ы		6,763千円			7,805千円				
献				田十0							
袋	. 1			田十0							
	一般財源			3,487千円			4,091千円				
	①期間内計画額(R4-7)	7)		60,400千円		②期間外計画額(R8-)		=0	0千円 ①+②総計画額	FEEX.	60,400千円

田十0	次年度への繰越額
13,319千円	当年度の最終予算額
田士0	前年度からの繰越額
	(令和5年度予算額の内訳)

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
(4) 计计数分数形式 计对象 计	(間少)珠ーグガツグ/モバニ洋料本4 画等二字珠ギバン彩馬井	计	1	計画値	5,400	2,500	2,600	5,700
以际後丁らも叙手参画名	牧手に 参回した 過気 トンノノイ	(第口)	<	実績値	6,347	6,224		
(学) おもの は おり は おり は とり は とり は とり は とり は とり は とり	(間女)操一次投の発出は「叫祭」の株式 乙多無井	出	1	計画値	13,500	14,000	14,500	
秋至参加汽車	教主に参加した 近重の近へ 人致 (牛	\ ₩	<	実績値	13,123	16,166		
				計画値				
				実績値				

地域での子どもの体験学習や地域の大人との交流活 動などを通じて、地域の中で子どもが安心して過ごす ことができる居場所づくりのため、「放課後子ども教室」 事業の目的 を継続的に実施していく。 事業の対象 小驴件 ||年起) (

事業の達成状況等を踏まえた課題事項

なった放課後子ども教室もあったが、全小学校区で実施することができたことから、地域で子どもの体験学習や地域の大人の交流活動を通じて、地域の中で子どもが育まれる居場所を構築することができた。

各小学校内ではインフルエンザ等の感染症による学級閉鎖等により、一部中止と

事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか

地域の中で子どもが安全・安心に過ごすことができる環境づくりを充実させるため、放課後児童クラブやPTA、子ども会などの地域団体と協力するとともに、情報共有する必要がある。また、一部の小学校区では、運営に関わる人の高齢化や人材不足があり、今後はどのようこ人材の確保して いくかの課題がある。 () 異題(

履歴】

継続(現状維持) ⋖ 成果判定 事業展開

継続(現状維持)

令和7年度

令和6年度

令和5年度 ⋖

令和4年度

副出 \equiv 掛 社会教育GL 怒 松小 生涯学習課長 生涯学習課 佪 佪 会事務局 教育委員会事務) 育委員 数 最終評価者 1次評価者

今後も継続して、地域一体となって子どもが安 全・安心に育まれる居場所づくりの充実を図る。 令和7年度以降で対応するもの 改善・見直し内容 方向性 現状どおり事業を継続する 令和6年度で対応する(した)もの 継続(現状維持) ⑦事業の展開(

十分な成果を得た

 \triangleleft

 \circ

() 東東(

	2 「風味	17000			, 巨羊令小丑;	五年中事業				三班 (开 / 米五	00
		77077		}	子校施設技券部化計画表定事業が 二二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	国家に事業				評価労類	D2
\bigcirc	事業手法	風風	一部委託	\Box	補助等	」その他(
	施策の大緇	04:子育てと子	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実	5環境の充実		水	: 計 01: 一般会計	冷計		担当部署	
本	基本施策	01:子どもたち	の豊かな学びと成っ	01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実	充実	算	10:教育費	量		加 粉杏米吕心事数日	
	施策の方向	02:学びの環境の充実	竟の充実					総務費		大 日 大 日 大	נשונה
	重点プロジェケト	04:「未来への	ラ」プロジェクト	•			3 02:事務局費	同費		教育総務課	
	事業期間	R 4 4	年度 ~ R (5 年度 主	主な根拠法令						
2	事業の必要性(経緯・背景等	を緯・背景等)	の業量	事業の対象(誰に、何に対して)		事業の目的(ど	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	したいのか)	事業の内容(事業の内容(どのような取組を行うのか)	
7 1 1 1 10	法的耐用年数を迎える学校施設の増加が見込まれることから、耐用年数を延伸することを前提とした予防保全型管理を行うため、計画的に改修等を行う必要がある。	交施設の増加が賃 正伸することを前む こめ、計画的に改1	3.込ま <u>小中学校施設</u> B.と.し 修等	経	 大 大 大 大	各学校施設の状況等から中長期にわたる整備の内容や時期等を予め把握することにより、学校施設の適切な管理と計画的な修繕、改築等を進めることができる。	記等から中長期に 7 め把握すること 計画的な修繕、	:わたる整備の こより、学校施 改築等を進め	学校施設の老朽化等に関 基本的な方針や施設の維 繕、改築等の優先順位を言 を策定する。	学校施設の老朽化等に関する実態把握を行った上で、改築等の基本的な方針や施設の維持管理に関する手法等を立案し、修繕、改築等の優先順位を設定する等、中長期的な長寿命化計画を策定する。	、改築等の 7案し、修寿の化計画 寿命化計画
	1		\ \	1		1 1 1 4			1	, , ,	
	年度		令和	令和4年度		令和5年度		ν ,	令和6年度	令和/年度	
	田福業・	O 账	〇学校施設長寿命化計画(個別計画) 策定	化計画(個別計画)	(A) (A) (A) (A) (A) (A) (A) (A) (A) (A)	〇学校施設長寿命化計画(個別計画)策定	(個別計画)				
③ 事 業(活動実績	≪払い∑ぐ∫	令和4年10月に業務委託を締結し、地調査を含む対象施設の実態把握を比、建物情報一覧表に取りまとめた。【対象施設】 い、単物情報一覧表に取りまとめた。 【対象施設】 小中学校14施設、関学校給食センタ	令和4年10月に業務委託を締結し、現地調査を含む対象施設の実態把握を行い、建物情報一覧表に取りまとめた。 【対象施設】 小中学校14施設、関学校給食センター	現 昨年度実 行 課題等を 本的な方 取りまとめ 一 策定した。	別 昨年度実施した劣化状況調査を基に、	調査を基に、 記整備の基 計画案等を 寿命化計画を				
の実施状況((計画通り実施できたか)		取りまとか事項】 2、整年度、構造、後 3、外壁・内部仕上 3、名調査記録 3、名調査記録	【取りまとめ事項】 建築年度、構造、建築年度、耐震安全性、外壁・内部仕上・電気・機械の劣化状況、各調査記録 等	44						
<u> </u>	事業費	+	2,000年円	1,468年円	9	田士006,	4,990千円			ļ	
	B·県支出金	中		田十0	F		田十0				
画	算 地方債			田士0	F		田士0				
	第一その他			日十0	F	•••••	田士0				
	一般財源		2,000千円	1,468千円		6,900千円	4,990千円				
	事業費			1,468千円	F.		4,989千円				
	国・県支出金	H 中		田十0	F		田十0				
	地方債			0千円	F		0千田				
多	40色			田十0	F		田十0				
	一般財源			1,468千円			4,989千円				
	①期間内計画額(R4-7)	R4-7)		8,900千円		②期間外計画額(R8-)		-0	0千円 ①+②総計画額		8,900年円

0千円 4,990千円 0千円	令和5年度	事業の目的 各学校施設の状況等から中長期にわたる整備の内 容や時期等を予め把握することにより、学校施設の適 切な管理と計画的な修繕、改築等を進めることができ る。		令和5年度 令和6年度 令和7年度	В	完了	教育総務課長 麻生 俊哉
訳) 繰越額 予算額	令和4年度			令和4年度		継続(現状維持)	教育委員会事務局 勃 教育委員会事務局 勃
(令和5年度予算額の内訳) 前年度からの繰越額 当年度の最終予算額 次年度への繰越額	種別 単位 区分 財画値 計画値 財画値 実績値 計画値 計画値 計画値 計画値	事業の対象小中学校施設			成果判定	事業展開	1次評価者 教育 最終評価者 教育
		(年報)]			범】 	
	説明等	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか 各学校等施設の劣化状況等について概ね把握することができ、今後の施設の適 正管理と計画的な修繕や改修等を実施する目安となる計画を策定することができ た。 長寿命化改修工事等の実施については、更なる詳細な建築物の調査結果に加え、現在の市財 政状況及びマンパワーを踏まえた実施計画の立案が必要であり、劣化状況等に基づく望ましい改修 修スケジュールに則ることが難しい可能性がある。	•	方向性	目的の達成又は終期の到達等により事業を完了する。	改善・見直し内容 合和7年度以降で対応するもの	
	指標名 指 学校施設長寿命化計画の策定 標 C	(3) 各学校等施設の劣化状況 (4) 正管理と計画的な修繕や記載 (5) た。 (6) 長寿命化改修工事等の実施については、 (6) 長寿命化改修工事等の実施については、 (6) 長寿命化改修工事等の実施については、 (7) 大グン・パワーを踏まえた実施計画 (8) スケジュールに則ることが難しい可能性計 (6) (7)			記	令和6年度で対応する(した)もの	4)

	計画コート	6/077	I /								
	事業手法	直第	- 部委託 🔽 全		補助等	その他(
) 基本 網等	施策の大綱 基本施策	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実 01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実	り成長を支える弱 かな学びと成長る	環境の充実 を支える環境の充	美	YIN .	会計 01:一般会計 款 10:教育費	! :費		刑 日 日 -	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
(体 系	施策の方向 重点プロジェケト	02:豊かな学びを支える教育環境の充実 04:「未来へのドラ」プロジェケ	える教育環境の 7.プロジェクト)充実		林本四		校費 :管理費		教育委員教育総務	会事務局
	事業期間	H 20 年度	ı ≃ ~	年度 主	主な根拠法令等	l Hills				課 保健給食G	
	事業の必要性(経緯・背景等)	緯·背景等)	_	象(誰に、何に対して)		事業の目的(ど	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	したいのか)	事業の内	事業の内容(どのような取組を行うのか)	
車業機 電活 た と で し、 で で で で で で で で に に で に に に に に に に に	亀山中学校・中部中学校の生徒が、正しい食生活を身に付け、食育に関する指導の充実を図るとともに、栄養に配慮した食事を提供することとて、平成20年度から実施している。	生徒が、正しい食生5指導の充実を図るとを提供することとしている。		亀山中学校及び中部中学校の生徒		庭弁当の持参と 式を通して、生後 への関りを持つ材 長が著しい中学 心た昼食を提供・	デリバリー給食(きが自らの昼食) 幾会を与えるとと生に対し、栄養 する。	家庭弁当の持参とデリバリー給食の選択ができる方式を通して、生徒が自らの屋食に関心を示し、食への関りを持つ機会を与えるととに、心身の成長が著しい中学生に対し、栄養バランスの考えられた昼食を提供する。	亀山中学校・中部中学校における生後参と給食の調理・予約注文・集金業務リー給食との選択制とし、各家庭のニー取を考慮した昼食の提供を実施する。	亀山中学校・中部中学校における生徒の昼食を、家庭弁当の持参と給食の調理・予約注文・集金業務等を外部委託するデリバ参と的選択制とし、各家庭のニーズや生徒の嗜好・栄養摂取を考慮した昼食の提供を実施する。	庭弁当の持らするデルベラオン・ ではるデルベ を好・栄養摂
	年度		- 令和4年度	三度	-	令和5年度		AI.	- 令和6年度		
	国	八 八 千 〇	○デリバリー方式による給食実施	然食実	_(!≽\ <u>(</u> !\=\)	○デリバリー方式による給食実施		○デルベリー方₃	○デルツー方式による給食実施	〇デリバリー方式による給食実施	2実施
の事業 6	活動実績	####################################	78回の実施によ 実施することが、 は象のアンケート 打合せと新メニ X立内容の改善?	年間178回の実施により、必要な回数の 給食を実施することができた。 生徒対象のアンケートを実施し、委託業 者との打合せと新メニューの取り入れに より、献立内容の改善を図った。	年給生者が	年間181回の実施により、必要な回数の 給食を実施することができた。 生徒対象のアンケートを実施し、委託業 者との打合せと新メニューの取り入れに より、献立内容の改善を図った。	S要な回数の た。 施し、委託業 物取り入れに った。				
5 実施状況((計画通り実施できたか)	になり									
	事業費		46,000千円	43,700千円		46,000千円	47,400千円	46,000年円	 田:	46,000年円	
		徘		日十0	F		田士0				
フ) 画 神	ľ			田十0	E		田十0				
				田士0		1	田 1 5 6 6 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7				
	一般財源		46,000千円	43,700千円		46,000千円 :	47,400千円	46,000+円	 E	46,000+円	
7.	事業費用・個本出金	4		42,088十円			47,254平円				
(算	地方債	<u> </u>		田田 10	,		5 日				
数	その他			田士0			田士0				
	一般財源			42,088千円	Г		47,254千円				
	(T-N日) 国际国际(D/L-7)	(2-1)		E + 000 F0+			_	-	は、一年一年の第二年第二十二年	н	18/1001年日

Δ
Γ
2
.2
蹈
榧
釆
₩
_
卅
*4
Ŋ
쮸
₩
仁
ΛL

田士の	次年度への繰越額
47,400千円	当年度の最終予算額
日士0	前年度からの繰越額
	(令和5年度予算額の内訳)

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
(4) 在第一门之一 给令第日 带	少,一一,一十,十之,并也,好回教 (重) 令	8 1	6	計画値	70	70		
土体のアンプー 配反固定	ノノノート(あ)の月た四日合い割日	*	0	実績値	75	74		
()	米回々でご始一ーニアが	计型型	[計画値	10		10	10
* ケーユー-0.14x9/ハイに C	ガアーユー状ツハイご数	中间	1	実績値	<u> </u>	-		
				計画値				
				実績値				

事業の目的	家庭弁当の持参とデリバリー給食の選択ができる方式を通して、生徒が自らの昼食に関心を示し、食への関りを持つ機会を与えるとともに、心身の成長が著しい中学生に対し、栄養バランスの考えられた昼食を提供する。
事業の対象	亀山中学校及び中部中学校の生徒

||年超) (

生徒対象のアンケートにおける肯定的回答(おいしい・どちらかと言えばおいしい)の割合は計画値を上回っている。また、利用者の過半数が、栄養バランスが良いことやメニューを選択できることを良い点としており、生徒自らの昼食への関心を高めつつ、栄養バランスの考えられた昼食を提供することができた。

() 東東(

事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか

事業の達成状況等を踏まえた課題事項

生徒対象のアンケートにおいて、利用者からは、デザートを増やしてほしいという回答が半数を超え、また、利用していない理由としては、量の多寡や好き嫌いへの対応に関する意見が多かった。 一方では、不安定な国際情勢等による物価高騰が続いていることから、こうした要望等への対応について、費用面も考慮しながら検討していく必要がある。 **⑥**點段(



方向性

令和4年度 成果判定 一番用 履歴】

令和7年度以降で対応するもの

改善・見直し内容

現状どおり事業を継続する

継続(現状維持)

⋖

令和7年度

令和6年度

令和5年度 ⋖

継続(現状維持)	
継続(現状維持)	
事 業 展開	

乖	
渡邉	
保健給食GL	麻生 俊哉
教育総務課	教育総務課長
教育委員会事務局	教育委員会事務局
狮	孫
1次評価者	最終評価者

Ŧ)

⑦事業の展開(∢)

材料費の物価高騰に対応するため、4月分から中学校全員喫食制給食実施事業の進捗によ保護者負担金額を改定した。生徒対象のアンリ、令和8年度第2学期から食缶搬入方式によケートや新メニューの取り入れと併せて、献立内 る全員喫食制給食に移行する。容の改善を行っていく。 令和6年度で対応する(した)もの

十分な成果を得た

	211回世間	22076	# # #								
(-	-		一	き部委員	- 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	70年(
	4 米 - 人 女 本 林 代 十 名 十 名		. 1 A B C T A								西华六叶
	施表の大着其大格等	04:十首 (と于と) 01: 子グキケケ	04:十貫(と十ともの)队長を文える境場の光美01:チブキたちの豊かた学7/2 成長を支える晋	04:ナ肩 (とナともの)処長を文える環境の允美 01: チどŧたちの豊かな学パル 武長を支える程情の夲宝		—————————————————————————————————————	- 01:一数別計 10: 考古事	11年			ШΙ
· ☆ 休	施策の方向	02:豊かな学び	02:豊かな学びを支える教育環境の充実	の充実	ζ	林本	03:中孙校曹	校費		部教	教育委員会事務局
	重点プロジェケ	04:「未来へのト	04:「未来へのドビラ」プロジェケト			ш	01:学校管理	汽管理費		= 教	教育総務課
	事業期間	R 4 年度	要 ~ R 7	年度 主な	主な根拠法令等	_ _ _					育総務G·保健給食G
3	事業の必要性(経緯・背景等	偉·背景等)	事業の文	事業の対象(誰に、何に対して)	_	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	ような状態に	:したいのか)		事業の内容(どのような取組を行うのか)	を行うのか)
車業概要(d) 電計 は は は は は に に に に に に に に に に に に に	亀山中学校・中部中学校においては、現在、弁当またはデリバリー給食の選択制としているが、家庭環境の多様化や生徒間の公平性を考慮し、全員喫食制給食の早期実現を進める必要がある。	おいては、現在、 択制としているが、 い公平性を考慮し、 注める必要があぶ。		亀山中学校及び中部中学校に在籍する生徒及び教職員		亀山中学校及び中部中学校において、全ての生徒が同じ給食を一緒に食べることができる体制を整える。 整える。	8中学校において食べることが	いて、全ての生ができる体制を	亀山中学校及び中部中学校における全員喫食制給食の実施 向け、外部調理委託による食缶搬入方式の体制を整えるととも 中学校2校の給食受け入れ環境の整備を行う。	3中学校における全員による食缶搬入方式による食缶搬入方式け入れ環境の整備を	亀山中学校及び中部中学校における全員喫食制給食の実施に向け、外部調理委託による食缶搬入方式の体制を整えるとともに、中学校2校の給食受け入れ環境の整備を行う。
	年度		令和4年度	年度		令和5年度		ΑI	令和6年度		令和7年度
	一 一 一 二 業	Õ	○建設地、運営方法等の検討・決定		○敷地整理・インフラー○用地測量○設計業者選定○埋蔵文化財調査	理・インフラ調整 重 者選定 と財調査		○2中学校配膳 ○2中学校配膳	○外部調理委託業務業者選定 ○2中学校配膳室等整備工事設計	〇2中学校配膳室等整備工事 〇埋蔵文化財調査 〇配膳室備品購入	室等整備工事 問查 ^第 入
③事業の実施状況(活動実績 (計画通り実施できたか)		給食調理施設の建設候補地、 力、施設規模、事業手法について 委員会において9回にわたり検 ね、課題を整理した。 しかし、必要面積、法規制やイン・ 立地条件を満たす候補地がなく 物価高騰及び事業内容精査に、 費が増加し、財源確保が困難とた しから、建設地・事業手法の決え なかった。	調 開 に	昨年度の検討終 び用地確保の部 で用地確保の部 含め再調査・再 引き続き給食調 日本の・日本の・日本の・日本の・日本の・日本の・日本の・日本の・日本の・日本の・	能 昨年度の検討結果を受けて、財政面及 首 び用地確保の課題から、事業手法等を 重 含め再調査・再検討を実施した。結果、 引き続き給食調理施設の整備による給 の 食実施を目指しつつも、現段階において、 は外部調理委託による食缶搬入方式で 、 の給食実施を行うことと手法を変更し、そ 額 の内容を以て、令和5年11月に「中学校 ら 全員喫食制給食実施に係る基本的な計 画」を策定した。	財政 国 及				
	事業量		ļ	田士0		1.200千円	田廿0	21.700千円		234,000丰田	
盂		④		田士0			田士0				
圖.	算 地方債			0千円			0千円	16,000千円	E.	160,000千円	<u>E</u>
				田士0		•••••	0千円				
	一般財源			田士0		1,200千円	田士0	5,700千円	田,	74,000千円	田:
	事業費	<		田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田			田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田				
₹₺	国·宗文田 中十二	組		E E			E E				
早額	おる何かの名			工工							
	一般財源			田士0			田士()				
	(1)期間内計画類(R4-7)	1-7)		256.900 丰田		<u> </u>		-0	0千円 (1)+(2)総計画額	田袋	日 ± 000 ⇒ 22 € 300 年 日

(令和5年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	日士0
当年度の最終予算額	田士0
次年度への繰越額	田士0

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
4		H t		計画値			完了	
パ叩調理安配来自		米		実績値				
(金) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1		H H		計画値				完了
部階工作網上		**		実績値				
		出		計画値				
		₹ ₩		実績値				

亀山中学校及び中部中学校において、全ての生徒が 同じ給食を一緒に食べることができる体制を整える。 事業の目的 亀山中学校及び中部中学校に在籍する 生徒及び教職員 事業の対象 (||年超)

事業の進捗度合を踏まえた課題事項

令和5年11月に策定した「中学校全員喫食制給食実施に係る基本的な計画」に基づき、事業計画を見直した上で、そのスケジュールに沿って、外部調理委託の業者選定手続き(選定委員会要綱の策定手続き、業務委託仕様書案の作成)、必要予算の計上等を実施した。

中学校における全員喫食制給食の開始に向けて、「中学校全員喫食制給食実施に係る基本的な計画」に基づく給食の実現のため、その内容を網羅した仕様書を作成し、外部調理委託の業者選定を速やかに行う必要がある。また、亀山中学校及び中部中学校における配膳室等設置について、学校運営や、生徒及び業者による給食配送等、様々な状況を把握しつつ、適切な設置箇所等について検討・決定する必要がある。 **⑥**點段(

O)



方向性

継続(現状維持) 令和4年度 進捗度合 事業展開 履歴】

令和7年度

令和6年度

令和5年度 മ 継続(現状維持)

教育総務GL中野 貴晶 保健給食GL 渡邊 尚也 筱哉 麻生 教育委員会事務局 教育総務課長 教育総務課 岠 教育委員会事務 最終評価者 次評価者

公募型プロポーザル方式により外部調理委託 亀山中学校及び中部中学校における配膳室等の業者選定及び業務委託の締結を行うととも設置工事の実施に併せて、工事に付随する監に、亀山中学校及び中部中学校における配膳 理業務委託、地質調査等も実施する。室等設置に係る設計業務を行う。 また、令和8年度からの給食実施に向け、配膳室等設置に係る設計業務を行う。 室等に必要な備品購入等を行う。 改善・見直し内容 現状どおり事業を継続する 令和6年度で対応する(した)もの 継続(現状維持) ⑦事業の展開(

令和7年度以降で対応するもの

概ね計画どおり進んでいる

O)

മ

⑤進捗度合(

盐			4	<u> </u>	#	K
		01:一般会計	10:教育費	08:教育研究費	01:教育研究費	単 下半 中
		松丰	禁	西	ш	四 井 女 本 臣 语
	カ他(4	陣	本	Ш	C ##
事業名 学力向上推進事業	部委託 □ 全部委託 □ 補助等 □ その)成長を支える環境の充実	かな学びと成長を支える環境の充実	fしい時代に活躍できる子どもの育成	ラ」プロジェクト	一 本学品書 1 本学品書 1 全事
22077	計一 国国 区	04:子育てと子どもの	01:子どもたちの豊た	03:希望をもって新	04:「未来へのドラ	1 07 仕掛
11年間に	事業手法	施策の大綱	基本施策	施策の方向	重点プロジェクト	開
				₩		
	\in)	₩	₩₩	娂	

評価分類 AI	担当部署	教育委員会事務局	学校教育課 教育支援G
計件		部	艦

	かな字びと成長を しい時代に活躍で しい時代に活躍で 一 R R R R R R R R R R - R	支える環境の充実 きる子どもの育成 年度 主な根 (離に、何に対して) 校の児童・生徒・教 校の児童・生徒・教 長をの開催 ○ 54版】の策定 ○		算 款 10:教育費 払 項 08:教育研究費 日 01:教育研究費 日 01:教育研究費 日 01:教育研究費 日 01:教育研究費 日 01:教育研究費 日 01:教育研究費 日 01:教育研究 日 01:教育研究 日 01:教育研究 日 01:教育研究 日 01:教育研究 01:教育	当費 等研究費 国 こしたいのか) 善を行い、児童 善を行い、児童 意また、中学校 微員の授業準備 〇国語科共通ラ 〇運動部活動対	 部 教育委員会事務局 事業の内容(どのような取組を行うのか) 教職員への各種研修会の開催のほか、国語科共通テストや「かめ やまっ子チャレンジ」を実施し、教職員の指導力向上と児童生徒の学力向上を図る。また、中学校へ運動部活動支援員を派遣し、教職員の負担軽減を図る。さらに、「学力向上推進計画」の改訂を行う。 和6年度 ・福研修会の開催 ・本和7年度 ・本和7年度 ・本の実施 ・ 国語科共通テストや「かめ 学力のと関係会の開催 ・ 本のをの開催 ・ 本のををの開催 ・ 本のををの開催 ・ 本のををの開催 ・ 本のを確可修会の開催 ・ 本のを確可修会の開催 ・ 本のををの開催 ・ 本のををの開催 ・ 本のを確可を会の開催 ・ 本のを確可を会の開催 ・ 本のををの解して、 「一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一
(計画通り実施できた。				(198:教育 (198:教育 (199: (199: (9 研究費 1	
# 重点プロジェクト 事業期間 事業期間 全国学力・学習状況調査等に たらかったことや考えたこと する 1等の課題を解決し、児童学力向上を図るため、「亀山市学力向上推進計画」 推進する必要がある。		#度 まな権		11:教育 101:教育 101:教育 101:教育 100	明明 10 10 10 10 10 10 10	課 学校教育課 教育支援G 教育支援G 教育支援G 教育支援G をの場 教育支援 をの開催のほか、国語科共通テストや「かめ 実施し、教職員の指導力向上と児童生徒の (中学校へ運動部活動支援員を派遣し、教 さらに、「学力向上推進計画」の改訂を行ら の重部科共通テスト等の実施 ○重動部活動支援員の派遣 ○学力向上推進計画[第5版]の策定 ○学力向上推進計画[第5版]の策定
		1	洪	期教育振興基本計画 的(どのような状態に 算力の向上と授業改の向上と定着を図る。 対の向上と定着を図る。 投震員を派遣し、教職 報を確保する。 特定の開催 特会の開催 特の派遣	画 二にたいのか) 一書を行い、児童 また、中学校 で、中学校 で、大学な で、大学、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 、 で、 で、	□ □ ■ 教育支援G 教育支援G 教育支援G
		離に、何に対して		1的(どのような状態に 導力の向上と授業改 か向上とだ着を図る。 女援員を派遣し、教職 引を確保する。 1年度 特の実施 等の実施 第の派遣 第の派遣	さしたいのか) 善を行い、児童 。また、中学校 戦員の授業準備 ○国語科共通子 ○運動部活動対	容(どのような取組を行うのか) 会の開催のほか、国語科共通テストや「かめ 実施し、教職員の指導力向上と児童生徒の 、中学校へ運動部活動支援員を派遣し、教 、さらに、「学力向上推進計画」の改訂を行 、一会教職員への各種研修会の開催 ○国語科共通テスト等の実施 ○運動部活動支援員の派遣 ○学力向上推進計画【第5版】の策定
W Z や N C		交の児童・生徒・事の開催	新祖 	算力の向上と授業改 の向上と定着を図る。 女援員を派遣し、教職 間を確保する。 1年度 1年度 第の実施 真の派遣	華を行い、児童 ・また、中学校 ・また、中学校 ・また、中学校 ・数職員への名 ・の国語科共通テ ・の運動部活動す	会の開催のほか、国語科共通テストや「かめ 実施し、教職員の指導力向上と児童生徒の 、中学校へ運動部活動支援員を派遣し、教 5。さらに、「学力向上推進計画」の改訂を行 合和7年度 ○独職員への各種研修会の開催 ○国語科共通テスト等の実施 ○運動部活動支援員の派遣 ○学力向上推進計画【第5版】の策定
	会和4年度 ○教職員への各種研修会 ○国語科共通テスト等の ○運動部活動支援員の派 ○学力向上推進計画[第4	の開催 (記述) (1版】の策定 (1版】の策定 (1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、	令和5 教職員への各種研)国語科共通テスト等)運動部活動支援員 2カ向上推進計画第 ・対向上推進計画第	4年度 14を 14e 14	令和6年度 ○教職員への各種研修会の開 ○国語科共通テスト等の実施 ○運動部活動支援員の派遣	令和7年度 ○教職員への各種研修会の開催 ○国語科共通テスト等の実施 ○運動部活動支援員の派遣 ○学力向上推進計画【第5版】の策定
	○教職員への各種研修会 ○国語科共通テスト等の身 ○運動部活動支援員の派 ○学力向上推進計画【第4	の開催 ミ語 に遺 に遺 に動 1版】の策定 5会を2回開催 学)教職員への各種研リ国語科共通テスト等(国語科共通テスト等(国動部活動支援)を関いて、 (基本の)を	修会の開催 等の実施 員の派遣	○教職員への各種研修会の開 ○国語科共通テスト等の実施 ○運動部活動支援員の派遣	○教職員への各種研修会の開催 ○国語科共通テスト等の実施 ○運動部活動支援員の派遣 ○学力向上推進計画【第5版】の策定
		8会を2回開催 学りによる。	5力向上推進計画第 5. 説明動画等を作[54版の取組を進め		
事業費	教職員への学力向上研修会を2回開催した。国語科共通テストについて小3~小6の単元ごとに共通テストを作成し、各校当該学年で実施した。(年20回程度)運動部活動支援員として5名の登録があり、累計268回実施した。学力向上推進計画[第4版]の策定を完了した。	たいている を作成し、各校 たい回程度)を核 たいの登録があ デカート推准 フレた。 2	月末までに各校研修会で視聴した。教職経験の浅い教職員が主体的に研修を行う機会を年間6回行った。国語科共通テストニン・スパ3~小6の単元ごとに「読み取る力」に重点を置いた共通テストを作成した。(年20回程度)運動部が到支援員は、5名の登録があり、累計395回実施した。	た。説明動画等を作成し、全教職員が5 月末までに各校研修会で視聴した。教職 経験の浅い教職員が主体的に研修を行う機会を年間6回行った。国語科共通テストニンいて小3~小6の単元ごとに「読みレ・読み取る力」に重点を置いた共通テストを作成した。(年20回程度)運動部活動支援員は、5名の登録があり、累計395回実施した。		
Þ	2,000丰田	1,630千円	1,800年円	1,800千円	田十008,1	2,400千円
		日十0				
画質地方債		田士0				
		日士0	•••••			
一般財源	2,000千円	1,630千円	1,800千円	1,800千円	1,800千円	2,400千円
事業費		1,266千円		1,549千円		
(五)		田川				
		田 十0				
₩ ₩		田山(1		
—————————————————————————————————————		1,266千円		1,549千円	L	
①期間内計画額(R4-7)		8,000年円	②期間外計画額(R8-	38-)	0千円 ①+②総計画額	8,000千円

T
iliic
箱の内訳
8
.⊆
嬹
FK/
兣
1
ᄱ
ψ
Œι
#
-₹Η
2
₩.
令和 5
ν.

田士0	次年度への繰越額
日十008,1	当年度の最終予算額
田中0	前年度からの繰越額

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
4) 人国第七二部第十四盟本代开东等		# 1	/0	計画値	小学校 94中学校 72	小学校 96中学校 74	小学校 98中学校 76	小学校100中学校 78
11年11年11年11日末	阻りる	*	0	実績値	小学校:90 /中学校:64	小学校66/中学校53.2	小学校:90 /中学校:64 /小学校66/中学校53.2	
票 3 分 号 科 干 辑 土 体 辑	1. 一种工程工程,这个是一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一	i T	[計画値				20
連動部/占劃又抜員の川代追回数 ○	中子作X、VJ建乳即占别又该具VJ/K/亳凹数	は別	<u> </u>	実績値	53	79		
# 早 、	対策/夕間の + バス 2、17 1路	#	/0	計画値	小学校 91 中学校 88	小学校 91 中学校 8	中 26 砕本小	2 中
出出	才久でひ女米を年乗している十つもひ割古(子女評価ノノンート)	以 米	°	実績値	小学校90/中学校87.2	小学校90.2/中学校88.3		

事業の達成状況等を踏まえた課題事項

がった。

まずまず成果を得た

②苯联色

亀山市教育研究推進協議会の算数·数学部会に県指導主事を招聘し研修会を開催し、指導力の向上と授業改善につなげることができた。「全国学力・学習状況調査」と「みえスタディチェック」の結果を分析し、各校の「学力向上推進計画」の見直しと取組シートの報告を2回行い、授業改善のための具体的な取組につなげ児童生徒が主体的に学習できるように取り組んだ。授業理解度に成果が見られた。運動部活動支援員の配置により、教職員の研修や授業準備の時間確保につな

事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか

⑤「全国学力・学習状況調査」と「みえスタディチェック」の結果により、全国・県平均に比べて小中と まして、複数の領域(データの活用等)において課題が見られることから、教員の教科の指導方法の と、変歴学習の規む必要がある。児童生徒への質問紙調査より、「家庭学習の時間が少ない」ことか い、家庭学習の見直しと定着を図る必要がある。



方向性		改善·見直L内容	業
为	継続(現状維持) 現状どおり事業を継続する	改善· 見	令和6年度で対応する(した)もの
	継続(現状維持)		令和6年 <u>第一次,第</u>
	0	帅 :	業の

の 学力向上推進計画【第4版】を着実に進め、学 内 白 上強 化 週間として「Kameyama Study 職員の指導力向上及び授業改善に向けた措置 Week」を実施するほか、市教委作成「亀ハタド」を講じていく。 ル」を対象児童生徒へ毎月実施する。また、一 人一台端末の持ち帰りを促進し、家庭学習の充 実を図る。(家庭学習の見直し、eライブラリの活

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
履歴	成果判定	Ą	В		
#] 	事業展開	継続(現状維持)	継続(現状維持)		

計画コード 22078 事業名 学校図書館支援事業	事業手法 □ 直営 □ 一部委託 □ 全部委託 □ 補助等 □ その他(施策の大綱 04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実	基本施策 01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実 算 款	施策の方向 03:希望をもって新しい時代に活躍できる子どもの育成 科 項	重点プロジェケト 04:「未来へのトビラ」プロジェケト 目 目	事業期間 H 21 年度 ~ R - 年度 主な根拠法令等 子どもの読書活動	事業の必要性(経緯・背景等) 事業の対象(誰に、何に対して) 事業の目的(どのような状態にしたいのかとたちの読書離れが年々進む中、学習指導 市内幼稚園、小学校及び中学校の園 学校図書館活動の充実と蔵書の適切な更新において、学校図書館機能の充実と計画的 児・児童・生徒・保護者	な活用が求められており、児童生徒が自主的・自 発的に本に親しむことができるよう、学校司書等と 連携して読書活動を推進する必要がある。
		01:一般会計	0:教育費	08:教育研究費	01:教育研究費	の推進による法律	事 学校図書館情語 の配置や学校図	こおける読書習慣の「リー読書リレー、読書チャレンジ
評価分類 A1		相宗田	加 批ض来吕心事欢已	秋月女月四事份	= 学校教育課	教育支援	業の内容(どのような取組を行うのか) 粉システムの運用と管理を行うとともに、学図書館活用アドバイザーの派遣を行う。まれ	書チャレンジを実施する。

如 华女禾巴〈事牧曰	秋月女月女事伤	量 学校教育課	教育支	どのような取組を行うのか)	と管理を行うとともに、学校司書イザーの派遣を行う。また、ファミ実施する。
# #			là	事業の内容(どのよう	学校図書館情報システムの運用の配置や学校図書館活用アドバノー読書リルー、読書チャレンジを
以 口关. c -	08:教育研究費	01:教育研究費	書活動の推進による法律	業の目的(どのような状態にしたいのか)	の充実と蔵書の適切な更新によ! 記書習慣の確立と、読書の質の また、家庭における読書習慣の !
 	村	ш	令等 子どもの読	事業の目的(どの	学校図書館活動の充言 り、児童生徒の読書習 向上が図られる。また、 定着が図られる。
うこうしつごうです。サウングスタイク・アグラ	しい時代に活躍できる子どもの育成	プロジェクト	~ R - 年度	事業の対象(誰に、何に対して)	市内幼稚園、小学校及び中学校の園児・児童・生徒・保護者
~~母~~~~	向 03:希望をもって新しい	04:「未来へのドラ」	間 H 21 年度	業の必要性(経緯・背景等)	が年々進む中、学習指導 書館機能の充実と計画的 以、児童生徒が自主的・自 ができるよう、学校司書等と 経する必要がある。
	事体 施策の方向		事業期間	 	事 子どもたちの読書離れ 業 要領において、学校図 概 な活用が求められてお 要 発的に本に親しむこと; 連携して読書活動を推

	年度	令和4年度	.度	令和5年度	ш.,	令和6年度	令和7年度
	申は業量	○学校図書館情報システム管理 ○学校司書の配置 ○学校図書館活用アドバイザーの派遣 ○読書リレー・読書チャレンジの実施		○学校図書館情報システム管理 ○学校司書の配置 ○学校図書館活用アドバイザーの派遣 ○読書リル一・読書チャレンジの実施	- ム管理 イザーの派遣 ンジの実施	○学校図書館情報システム管理 ○学校司書の配置 ○学校図書館活用アドバイザーの派遣 ○読書リルー・読書チャレンジの実施	○学校図書館情報システム管理 ○学校司書の配置 ○学校図書館活用アドバイザーの派遣 ○読書リレー・読書チャレンジの実施
	活動実績	学校図書館情報システムを適切に運用した。学校司書6名を14校全ての小中学校に配置するとともに、図書館活用アドバイザーを配置し、各校に月1,2回程度、14校に計168日派遣した。読書リレーをか雑園4個と小学校伝学在を対象に、2		学校図書館情報システムを適切に運用した。学校司書を6名を全小中学校に配置するとともに、学校図書館活用アドバイザーを配置し、各校に月1,2回程度、14校に計168日派遣した。読書リレーを幼稚園4個と小学校伝学在を対象につき	を適切に運用 小中学校に配 館活用アドバイ ・2回程度、14 5書リレーを幼 を対象に 2学		
里 七	計画通り実施できたか)	が開始である。 学期に10週間程度実施したほか、読え チャレンジを市内全保育所・幼稚園(長児)、全小学校(全学年)で実施した。	: 龍) ů	期に10週間程度であったが、これで10週間程度を施したほか、読書チャレンジを市内全保育所・幼稚園(年長児)、全小学校(全学年)で実施した。市立図書館との連携を進め、相互貸借事業「ほんくる。」も運用を開始した。	にびる (ほか、読書 所・幼稚園(年 (で実施した。 め、相互貸借 開始した。		
事業費	費	14,600千円	14,500千円	14,000千円	14,629千円	14,000千円	14,700千円
•••••	国·県支出金		田士0		849千円		
画	地方債		田士0				
•••••	その街		田士0	•••••			
	一般財源	14,600千円	14,500千円	14,000千円	13,780千円	14,000千円	14,700千円
事業費	費		13,530千円		14,182千円		
	国·県支出金		田士0		849千円		
黄	地方債		田士0				
数	その他		田士0				
	一般財源		13,530千円		13,333千円		
①期目	①期間内計画額(R4-7)		57,300千円	②期間外計画額(R8-)		0千円 ①+②総計画額	日士002'29

_
/ '
Γ
記
「額の内
$\overline{}$
Н,
.≃
нщк
-£X/0
轉
た一
٠.٠
<u>M</u>
1/1
11.
-HIX
娷
ш
ΥЧ.
10
=-
ш
₩-
令和5年
ΝГ
٠.
\sim

<u> </u>	14,629千円	1十0
前年度からの繰越客	当年度の最終予算額	次年度への繰越額

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学校図書館を活用した授業		计型	<u></u>	計画値	14	14	14	14
指 が月1回以上実施した学校数		第中		実績値	14	14		
示 日寄止往き事券	等什件14日の	田 七	E	計画値	8	6	10	1
用计次码机	 	¥ ₩		実績値	∞	8		
医米氏鼠心 及分子 电计记	平日授業時間以外の読書時間「10分以上」と回答したの子どもの割合(全	田 七	70	計画値		小学校 61 中学校 47	小学校 62 中学校 48	
未时間久がでいご言	1	₩ ₩		実績値	小学校 65/中学校 42	小学校 50.6 中学校 41.8		

事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか
図書館司書や図書館アドバイザーの配置により、読書指導の充実や図書館活用
指導に取り組み、児童生徒の読書習慣の確立及び読書の質の向上につながっ
た。また、読書リレーや読書チャレンジの取組は、家庭における読書習慣の定着に
掲

事業の目的

事業の対象

 履
 A
 B
 令和6年度
 令和7年度

 履
 A
 B
 A
 B

 歴
 事業展開
 継続(現状維持)
 継続(現状維持)

総続(現状維持)力は状どおり事業を継続する

(2) (1975年) (1975年)

| 1次評価者 | 教育委員会事務局 学校教育課 教育支援GL 北川 恵美子 | 最終評価者 | 教育委員会事務局 学校教育課長 武居 政敏

() | | |

まずまず成果を得た

മ

 \circ

(2) 東東(2)

学校図書館における蔵書数や貸出冊数等は満たしているものの、児童生徒の読書数に学校差や個人差があるため、各校の図書担当者が、図書館司書や学校図書館活用アドバイザーと連携し、児童生徒や家庭に多様な図書館活用方法や貸出方法を啓発していく必要がある。

事業の達成状況等を踏まえた課題事項

評価分類 A1		担当部署	加	秋月女月万事伤,	校	教育研究
		01:一般会計	10:教育費	08:教育研究費	01:教育研究費	化の推進に関する法律 第3期教育振興基本計画
	他(会計	算	科	Ш	学校教育の情報
22079 事業名 GIGAスクール構想推進事業	営 🕢 一部委託 🗌 全部委託 🔲 補助等 📉 その	育てと子どもの成長を支える環境の充実	どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実	望をもって新しい時代に活躍できる子どもの育成	未来へのビラ」プロジェケ	4 年度 ~ R 12 年度 主な根拠法令等 i
計画コード	事業手法 □ 直	施策の大綱 04:子	基本施策 01:子	施策の方向 03:希	[]:40] インコジェクト 重	事業期間
	\in	拼	本策		米	

担当部署		11女具女事伤	学校教育課	教育研究G
	苹	립	#	K
				第3期教育振興基本計画

1人1台のタブレッ小端末とクラウド環境等の整備を行うとともに、情報通信技術支援員の活用をする。また、教職員の指導技術の向上のための教職員研修を実施する。

「令和の日本型学校教育」が目指す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け、国が示したロードマップに沿った環境の整備を行うとともに、教員のICTを使った授業の指導力向上を図り、子どもたちの情報活用能力を育成する。

事業の目的(どのような状態にしたいのか)

市内小中学校の児童生徒及び教職員 事業の対象(誰に、何に対して)

GIGAスクール構想の実現に向け、文部科学省が作成したロードマップに沿って環境整備等を行っていく必要がある。

②事業概要(

△)

事業の必要性(経緯・背景等)

事業の内容(どのような取組を行うのか)

		③事業の実施状況(,ii	D 画	•••••			水	黄	愛		
年度	事業計画	活動実績(計画通り実施できたか)	事業費	国·県支出金	地方債	から も	一般財源	事業費	国·県支出金	地方債	その他	一般財源	①期間内計画額(R4-7)
令和4年度	○パンコン教室関連機器等賃貸借 ○校務用サーバー等関連機器賃貸借 ○情報機器の導入(教員用)、保守等 ○情報通信技術支援員の配置 ○教員研修、視察等	小中学校校務用サーバの契約期限が令和4年8月末までのため、令和4年9月1日より校務用サーバ等賃貸借の新規契約を締結した。 小中学校の管理職・非常勤講師等用の端末を62台追加配当するととに、情報通信技術支援員を1名配置した。また、ICTIに係る教職員研修及び先進校視察を行つた。	63,700千円	1,770千円			61,930千円						
庚			54,700千円	1,770千円	田士0	田士0	52,930千円	53,023千円	1,596千円	日土0	田士0	51,427千円	242,400千円
令和5年度	○パソコン教室関連機器等賃貸借 ○校務用サーバー等関連機器賃貸借 ○情報機器の導入(教員用)、保守等 ○情報通信技術支援員の配置 ○教員研修、視察等	児童生徒用端末の持ち帰り学習の増加に備え、フィルタリングソフトの更新を行うとともに、平成28・29年度導入の教職員のタブレット端末の老朽化を受けて、教職員用タブレットPCを59台追加更新した。また、情報通信技術支援員の配置を継続したほか、教職員を対象とした端末活続したほか、教職員を対象とした端末活用や情報モラルに係る研修会の開催や授業実践の指導助言を行った。	65,800千円				65,800千円						②期間外計画額(R8-)
	:賃貸借 機器賃貸借 引)、保守等 配置	7学習の増加 の更新を行う 事入の教職員 等分けて、教職 に受けて、教職 加更新した。 夏の配置を継 とした端末活 5会の開催や った。	61,079千円	田士0	0千田	0千田	61,079千円	60,156千円	日十0	0千円	日十0	60,156千円	
令和6年度	○パソコン教室関連機器等賃貸借 ○校務用サーバー等関連機器賃貸 ○情報機器の保守等 ○情報通信技術支援員の配置 ○教員研修、視察等		66,200千円				66,200千円						118,400千円 (
使	8等賃貸借 連機器賃貸借 8の配置												①+②総計画額
令和7年度	○校務用サーバー等関連機器賃貸借 ○校務用PC等関連機器更新 ○情報通信技術支援員の配置 ○教員研修、視察等		46,700千円			•••••	46,700千円						360,800年

田田

(令和5年度予算額の内訳)

0千円	次年度への繰越額
日十61019年日	当年度の最終予算額
田士0	前年度からの繰越額

	指標名	第1000000000000000000000000000000000000	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
ICT活	用スキルを身に付けている教職員	亀山市のICT活用スキル表のステップ2以上のスキルを身につけている教	田七	70	計画値	0/	72	74	9/
指 の割合		職員の割合	***		実績値	84	68		
宗 家庭学習におけるタブ	1るタブレット端末の活用	(留 <i>书) </i> 操凹少欧崇少之了司子轩字丰鼎 之\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	计	[計画値	15	32	20	70
以 状況		ソナ自い自然、牛	第口	ī	実績値	-	i I		
ICT機器の活	用が学習の役に立っている 「学習(カ中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思	田 七	70	計画値	7	72	74	9/
と考える児童生	生徒の割合	に対して、「役に立つ」(強肯定)と答えた児童生徒の割合	**	0/	実績値	69	75		

教職員用端末及び校務用サーバを更新し、学校における情報教育環境を整備したほか、情報通信技術支援員の配置やICT活用・情報モラルに関する研修会の開催等により、教職員のICT活用スキルが向上し、ICTを活用したわかりやすい授業づくVIこつなげることができた。また、児童生徒用タブレット端末の持ち帰り学習を進めたことにより、ICT機器の活用が学習の役に立っていると考える児童生徒の割合も増え、児童生徒の情報活用能力の向上につなげることができた。 事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか 十分な成果を得た

⑤成果(

 \circ

マップに沿った環境の整備を行うとともに、教員のICTを使った授業の指導力向上を図り、子どもたちの情報活用能力を育成する。 「令和の日本型学校教育」が目指す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け、国が示したロー| 事業の目的 市内小中学校の児童生徒及び教職員 事業の対象

> ||年起) (

事業の達成状況等を踏まえた課題事項

今後もGIGAスケール構想の実現に向け、文部科学省が作成したロードマップに沿って環境整備を行う必要があるが、今後、見込まれる機器等の更新については、機器の機能性に加え、経済性も考慮しながら進めていべ必要がある。こうした中、児童生徒用端末については、その更新を見据え、県主権の「GIGAスケール構想推進協議会」に参加し、国や県の動向を見ながら市としての方向性を定める必要がある。 () | | |



改善・見直し内容 力向存 現状どおり事業を継続す 継続(現状維持)

令和7年度の事業計画を変更し、令和7年度に 校務用パソコンの更新、児童生徒用端末の更校務用パソコンの更新のための準備を行う。 県 新など、GIGAスクール構想のロードマップに沿っ主催の「GIGAスクール構想推進協議会」に参加 FICT環境整備を適切に行う。必要に応じて、し、児童生徒用端末更新に係る市教育委員会 ICTの活用を通じた学びの向上に向け、改善・見 令和7年度以降で対応するもの 令和6年度で対応する(した)もの し、児里生佐用禍不吳利! としての方向性を検討する。 ⑦事業の展開(

直しを講じる。

令和/牛皮		
令和6年度		
令和5年度	A	継続(現状維持)
令和4年度	٧	継続(現状維持)
	成果判定	事業展開
	履	#]

《評価者 教育委員会事務局 子校教育課 教育研究《評価者 教育委員会事務局 学校教育課長 武居 正
(A)

		計画コード	22080	事業名	英語教育	:育推進事業						評価分類	.類	A1
\in		事業手法		部委託 🗌 全部委	託 二 補	助等] その他(, ^			
	括	施策の大綱	04:子育てと子どもの成長を支える環境の	朮長を支える環境 €)充実		4	似	01:一般会計				超宗耳	部署
	紙	基本施策	01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実	な学びと成長を支え	る環境の充	獣	横	禁	10:教育費			/# 1年	<u> </u>	事数目
₩₩	★	施策の方向	03:希望をもって新しい時代に活躍できる子どもの	い時代に活躍できる	神	没	本	西	08:教育研究費			_	(同) 发 冥 云	事物问
	₩	重点プロジェケト	04:「未来へのドビラ」プロジェクト	プロジェケ			ш	ш	01:教育研究費			作	≥校教育課	
		事業期間	H 19 年度 ′	~ R - 年	庚	主な根拠法令等	-					楘	育支援	
0		事業の必要性(経緯	p·背景等)	事業の対象(調	(離に、何に対し	(\(\zeta \)	事業のほ	目的(どのよ	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	- Inilir	事業の内容(どのような取組を行うのか	ような取約	祖を行うの	61)
事業概要(宀)	学 B 小 B 小 B 小 B 小 B 小 B 小 B N A N I N A P N P A P A P A P A P A P A P A P A	指導要領 に以めに LTの配置 の向上と る。	では、英語における4技能を系統 りまに付けさせることが求められてお 等に付けさせることが求められてお 等により、児童生徒の総合的な英、教員の指導力の向上を図る必要、教員の指導力の向上を図る必要	小学校及び中学校(学校の児童・生徒	* =	教員とALTが協 くりを行うとともい を充実させるこ 語力を身に付い また、児童生徒 果が授業改善!	教員とALTが協力して、引 くVを行うとともに、ネイテ を充実させることにより、 語力を身に付けている。 また、児童生徒の英語力 果が授業改善に活かされ	教員とALTが協力して、実践的で魅力ある授業づくVを行うとともに、ネイティブな英語に触れる機会を充実させることにより、児童生徒が総合的な英語力を身に付けている。また、児童生徒の英語力を確実に把握し、その結果が授業改善に活かされている。	<u>にづしてプログラムや派</u> 会 子どもたちの4技能 会 子どもたちの4技能 支 た、小学生が楽しく プを行う。さらには、 結 修会を行う。	ルアプログラムや派遣委託によるALTを小中学校に配置するほか、子どもたちの4技能を客観的に把握するため、外部試験を行う。また、小学生が楽しく英語に親しむ機会をつくるため、英語ディキャンプを行う。さらには、教員の英語指導力向上のため、英語教育研修会を行う。	:るALTをJ 把握するJ む機会を- 吾指導力信	<u>い</u>	配置するほか、試験を行う。ま英語ディキャン、英語教育研、英語教育研

	年度	令和4年度	ら和5年度		令和6年度	令和7年度
	里 桿業 ・	○ ALTの配置(JET・派遣委託) ○ 英語試験の実施 ○ 英語ディキャンプの実施 ○ 英語教育研修会の実施	○ALTの配置(JET・派遣委託 ○英語試験の実施 ○英語ディキャンプの実施 ○英語教育研修会の実施	(243)	○ALTの配置(JET・派遣委託) ○英語試験の実施 ○英語ディキャンプの実施 ○英語教育研修会の実施	○ALTの配置(JET·派遣委託) ○英語試験の実施 ○英語デイキャンプの実施 ○英語教育研修会の実施
③事業の実施状況(活動実績(計画通り実施できたか)	年度末時点でALT(JET・派遣委託)は、 5名を任用し、各校へ配置した。英語試験については、3中共通テストを中1・2年生対象に1回実施した。また、中2・3年生において、外部試験を実施した。英語デイキャンプを実施し、28名の児童が参加した。教職員対象の英語教育研修会も実施できた。	年度末時点でALT(JET 5名を任用し、各校へ配5名を任用し、各校へ配験については、中2・3年部試験を実施した。英語戦験を実施し、22名の児童が減実施し、22名の児童が減数の英語教育研修会対象の英語教育研修会	・派遣委託)は、 置した。英語試 生において、外 野ブイキャンプを 参加した。教職員 も実施できた。		
	事業費	33,400千円 31,769千円	32,300千円	29,575千円	32,800千円	33,400千円
	子 国·県支出金	田士0				
圖	算 地方債	日十0				
	額	1,050千円 1,029千円	1,150千円	1,115千円	1,150千円	1,150千円
	一般財源	32,350千円 30,740千円	31,150千円	28,460千円	31,650千円	32,250千円
	事業費	31,104 千円		28,859千円		
水	国・県支出金	田十0				
村	. 地方債	田十0				
紹	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	田士666		1,107千円		
	一般財源	30,111 千円		27,752千円		
	①期間内計画額(R4-7)	131,900千円	(-8H)里利(K8-)		0千円 ①+②総計画額	131,900手用

(令和5年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額 0千円 当年度の最終予算額 29,575千円 次年度への繰越額 0千円		
度からの繰越額0干宴の最終予算額29,575千	0千円	次年度への繰越額
年度からの繰越額 0千	75千	当年度の最終予算額
		年度からの繰越

指標名	説明等	揮別	東位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
4 世話日 体 今 心 中 祐 回 恭	*************************************	计型	[計画値	2	2	3	3
<u> </u>	米記が下あるシメルロ数	一	<u> </u>	実績値	2	2		
() 其形龙光[四]龙李 z 中部千仓置入	が世界では、 CCCD A 1. ジョロップ トナボー オージー・クロコン アンジー・ジョウル できょう アンジョン ファック コング・ファック ロック アンジャン・ファック アン・ファック アン・ファン・ファック アン・ファック アン・ファン・ファン・ファック アン・ファン・ファック アン・ファン・ファック アン・ファック アン・ファン・ファック アン・ファン・ファック アン・ファック アン・ファック アン・ファック アン・ファン・ファック アン・ファック アン・ファック アン・ファック アン・ファック アン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファ	H t	70	計画値	80	80		
米部でいることであるナイオン型ロ	ナなほ 吹った ヤイエッシ	¥	?	実績値	70	61		
世のボラナチャンへ	第分世界 计标记编记器	# 1	ò	計画値	80	_		80
十つから一切である。	♡N西暗冶쁴(~>) 9 ⊙ 티 左 라'떼♡레'급	张	8	実績値	72	68		

教員FALTが協力して、実践的で魅力ある授業づくりを行うとともに、ネイティブな英語に触れる機会を充実させることにより、児童生徒が総合的な英語力を身に その結果 また、児童生徒の英語力を確実に把握し、 が授業改善に活かされている。 事業の目的 付けている。 小学校及び中学校の児童・生徒・教員 事業の対象 ||年超) (

事業の達成状況等を踏まえた課題事項

ALTの全校配置により、学校生活の一日をネイティブな英語に触れる機会が増え、外国語の授業の満足度が高まった。英語キャンプでは、アクティビティ等を通して、英語に親しむことができた。生徒の英語力を把握し、検証するための研修会を行い、課題を解決するための授業改善につなげた。

事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか

「話す・聞く・読む・書く」の4技能を客観的に把握するために、単元ごとの評価を行うなどの詳しい英語力の実態を把握する必要がある。担当教員や担任がALTと協力して魅力ある授業づくりをするための研修会を行っていく必要がある。 () 異題(

令和7年度以降で対応するもの 改善・見直し内容 方向性 現状どおり事業を継続する 令和6年度で対応する(した)もの 継続(現状維持)

単元ごとの評価を行い、児童生徒の英語力を「令和6年度の実施状況を鑑み、必要に応じて、 詳しく把握し、ALTと連携した授業作りや評価に 児童生徒が総合的な英語力を身に付けるため 関する研修を行う。 ⑦事業の展開(

継続(現状維持)

継続(現状維持)

事業展開

令和7年度

令和6年度

令和5年度 മ

令和4年度

⋖

成果判定

履歴】

恵美子 岩三 政敏 教育支援GL 以 吊 学校教育課長 学校教育課 佪 育委員会事務局 会事務局 育委員: 数 数 最終評価者 1次評価者

O)

まずまず成果を得た

മ

 \circ

(2) 東東(2)

	2—□画品	081	事業を	個の字び支	- 業(小)走	(X)				評価分類	A1
\ominus	事業手法		部委託 🗌 全		補助等 二 そ	その他(
	施策の大綱	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実)成長を支える環	!境の充実		多条件	- 101:-	般会計		型	当部署
本紙	基本施策	01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実	かな学びと成長を	5支える環境の充	胀	算 款	(10:教育費	貴		4	吕心事数巨
	施策の方向	05:一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進	びを支えるきめ組	引かな教育の推進			[02:小学校費	:校費		火 工 大	(云事伤问
	重点プロジェクト	04:「未来へのドブ」プロジェクト	リプロジェクト				01:学校管理費	:管理費		学校教育課	[課
	事業期間	H 20 年度	~ ∼	年度 主な	主な根拠法令等	ı					t員G
	事業の必要性(経緯・背景等	偉·背景等)		象(誰に、何に対して)		事業の目的(ど	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	したいのか)	事業の内容	り容(どのような取組を行うのか	(OD)
事業概要(L)特療多い必別行様。要	特別な支援を必要とする児童が増加しており、医療行為や別室での個別対応など、支援の内容も多様化している中、児童の実態把握を丁寧に行い、個々の状況に応じた適切な支援を実施する必要がある。	童が増加しており、医など、支援の内容も など、支援の内容も ミ態把握を丁寧に行 び支援を実施する		小学校の特別支援学級に在籍する児童 および通常学級に在籍し特別な支援を 必要とする児童 必要とする児童		上又は生活上 要な支援を行 児童が、安心3 きることができ・	学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な支援を行うことで、特別な支援を必要とする児童が、安心安全に、かつ自立した学校生活を送ることができている。	・克服するため な支援を必要と 立した学校生	各学校の状況に応じる看護師を配置する。	各学校の状況に応じて、介助員、生活支援員、学習生活相談員、看護師を配置する。	学習生活相談員、
	年度		令和4年度	:庚		令和5年度		ΛΗ	令和6年度		年度
	里 持 禁	田子 〇〇〇〇日 中央 日本 小田 一	○介助員の配置 ○生活支援員の配置 ○学習生活相談員の配置 ○看護師の配置		○介助員の配置 ○生活支援員の配置 ○学習生活相談員の配置 ○看護師の配置	2階 3の配置 3談員の配置 3階		○介助員の配置 ○生活支援員の配置 ○学習生活相談員の配置 ○看護師の配置	[配置 真の配置	○介助員の配置 ○生活支援員の配置 ○学習生活相談員の配置 ○看護師の配置	嗣 2 短
<u>⊚</u> #		特別な民間の表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表	、支援を必要とす 校生活を送るに、 を適切に配置し、	特別な支援を必要とする児童が安心安 全に学校生活を送ることができるよう、介 助員等を適切に配置した。	マ特別な支援を必要とする児童が安心して ア安全に学校生活を送ることができるよう、 介助員等を適切に配置した。	:必要とする児 :活を送ること/ j切に配置した	<u>重が安心して</u> ができるよう、 。				
・ 米 (活動実績	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	1員:9小学校 3(5人配置	〇介助員:10.	小学校 42人	. 西僧				
の実施状況((計画通り実施できたか)		〇年沽支援員:2小字校 2人配直〇学習生活相談員:8小学校 8人〇看護師:1小学校 2人配置	※ 2人配置 1)学校 8人配置 人配置	〇生沽支援員:2小字校 2人配置 〇学習生活相談員:8小学校 8人配置 〇看護師:1小学校 2人配置	3:2小字核 2 8談員:8小学:1学校 2人配	人配置 校 8 人配置 信				
	事業費		80,200千円	73,900千円	82,200丰円)千円	82,550千円	82,700千円	E	81,300千円	
		④	1,300千円	1,125千円	1,300千円	田士(1,200千円	1,300千円	Ē	日士059	
四路	算 地方債			田田			田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田				
	は一般財活		78.900年田	0十円	田十00608		81.350年田	81.400年田	Œ.	80.650丰田	
-	事業費			72,161千円			81,995千円		-		
		御		1,125千円			1,101千円				
献				田士0			田十0				
一	トの色			0千田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田			田 出				
		1-7)		日十020/1/		う 期間 別 計 間 が 計 両 が は り り	00,034+1			兒	326 400年田
	一独目に記し国路にい			00,000	1	四段(1)(0 /				· ·	>>>+,>>>

囚
0
-豬6
予算犯
城分,
井
和5年
小
<u>U</u>

田十0	次年度への繰越額
82,550千円	当年度の最終予算額
田士0	前年度からの繰越額

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
聞き回話ぐ	4. 计型系列分配 电子对象 计分子	田 七	70	計画値	100	100	100	100
江町貝の間	カツギル 一番 ノンニ 切貝数 こくり の部 直	¥ ₹	8	実績値	92	86		
一角	一年	田 七	70	計画値	100			100
1友1月 ギバレノケニが合う レノ	右手 三回 中と 1.5 返し 2 1 下め こう 1.5 で こう 2.5 で	¥ ₹	8	実績値	100	100		
# # !!	口供少年的分子。一年,大学,大学,大学,大学,大学,大学,大学,大学,大学,大学,大学,大学,大学,	# 1	'n	計画値	95	92	66	86
子校生治の海足及	に及调宜においる又抜か必安と9の元里の木詩台の、	以米	%	実績値	91	69		

学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な支援を行うことで、特別な支援を必要とする児童が、安心安全に、かつ自立した学校生活を送ることができている。 事業の目的 小学校の特別支援学級に在籍する児童 および通常学級に在籍し特別な支援を必 事業の対象 要とする児童 再揭) (

十分な成果を得た

特別な支援を必要とする児童の個々の状況に合わせて、特別支援学級に在籍する児童には介助員又は看護師を、特別支援学級以外に在籍する児童には生活支援員又は学習生活相談員を配置し、必要な支援やサポートを行うことにより、各児童が安心安全に学校生活を送ることができた。

 \triangleleft

 \circ

⑤成果(

事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか

事業の達成状況等を踏まえた課題事項

特別な支援を必要とする児童が増加する中、多様な学びの実現に向けた支援の必要性は高まっており、教育支援委員会での判定や学校からの要望も踏まえた上で、介助員等を適切に配置するとともに、小学校入学から中学校卒業までの9年間を見通した、切れ目のない支援を行うための体制を構築する必要がある。 () 異題()

成果判定 履歴】

令和7年度 令和6年度 継続(現状維持) **令和5年度** ⋖ 継続(現状維持) 令和4年度 ⋖ 事業展開

加藤 学事教職員GL 政敏 武居 学校教育課長 学校教育課 佪 佪 会事務局 委員会事務/ 育委員: 縆 数 数 最終評価者 1次評価者

噩

方向性

現状どおり事業を継続する 継続(現状維持)

切れ目のない支援を行うため、介助員、生活支援員等の人材確保に努める。 の 教育支援委員会において個々の児童の実態を切っ 展 把握し、必要な支援を検討し、継続的な支援を 援 行う。多様な学びに対応するために必要な人材 を確保し、特別支援学級在籍児童だけでなく、 不登校児童や外国にルーツをもつ児童を含め た様々な児童に対する支援を行う。 令和6年度で対応する(Lた)もの

令和7年度以降で対応するもの

改善・見直し内容

⑦事業の展開(∢)

			H 4 4	半十が兆)旦	(学乳子/养册)				珠// 上/ 上		T <
	計画コート	78077	`₩ 	個の子の文法	光士/米				評自分類		A
\bigcirc	事業手法		一部委託 二 全部委託	5託 補助等	等 その他(
	施策の大綱	04:子育てと子ども	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実	り充実		☆計 01:一角	·般会計		#	担当部署	
	基本施策	01:子どもたちの豊	01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実	える環境の充実		款 10:教育費	う貴		4 4 4 米 4 米	来 吕 今 审 	۵
事	施策の方向	05:一人ひとりの学	05:一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進	な教育の推進	本	項 03:中学校費	学校費		后 ————————————————————————————————————	女具内事伤	<u>e</u>
	重点プロジェケト	04:「未来へのドビラ」プロジェクト	ラ」プロジェクト			101:学科	01:学校管理費		事 学校教	学校教育課	
	事業期間	H 20 年度	~ R - 年	年度 主な	主な根拠法令等					教職員 G	
	事業の必要性(経終	(経緯·背景等)		誰に、何に対して)		事業の目的(どのような状態にしたいのか)	こしたいのか)	事業の内容	学(どのような取組を行うのか、	行うのか)	
事業概要(P)特室い状別であぶ	特別な支援を必要とする生徒が増加しており、別室での個別対応など、支援の内容も多様化している中、生徒の実態把握を丁寧に行い、個々の状況に応じた適切な支援を実施する必要がある。	生が増加しており、別 り内容も多様化して 丁寧に行い、個々の 実施する必要がある。	J 中学校の特別支援学級に在籍も各生徒 および通常学級に在籍し特別な支援を 必要とする生徒	学級に在籍す 在籍し特別な支		学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な支援を行うことで、特別な支援を必要とする生徒が、安心安全に、かつ自立した学校生活を送ることができている。		各学校の状況に応じて、介助員、学習生活相談員、看護師を配置する。 置する。	介助員、学習生活	相談員、看	護師を配
	年度		令和4年度		令和5年度	5年度	令和6年度	年度	 	令和7年度	
	甲 坦 潔	○ ○ 	○介助員の配置 ○学習生活相談員の配置		○介助員の配置 ○学習生活相談員の配置		○介助員の配置 ○学習生活相談員の配置 ○看護師の配置	-	○介助員の配置 ○学習生活相談員の配置 ○看護師の配置	一里田の	
(e) 		特別な 全に学 助員及 7	特別な支援を必要とする生徒が安心安 全に学校生活を送ることができるよう、介 助員及び学習生活相談員を適切に配置 1 た	も徒が安心安 できるよう、介 を適切に配置 :	特別に支援を必要とする生徒が安心して安全に学校生活を送ることができるよう、介助員及び学習生活相談員を適切に配置した	する生徒が安心して ることができるよう、 5相談員を適切に配					
・無の	活動実績	î Ç	中国:3日学校 8人即		同文:: 〇个甲酉:3日将枝	7人 配署					
実施状況((計画通り実施できたか)		○学習生活相談員:3中学校 ○学習生活相談員:3中学校	3人配置	〇学習生活相談員:3中学校 3人配置〇学習生活相談員:3中学校 3人配置	3中学校 3人配置					
Д	事業費		17,800千円	17,600千円	19,400千円	17,600千円	23,000年円		26,600千円	 	
		御		日十0	•••••	田士0	650千円		1,300千円		
フ) 画	第 地方債			田十0		田十0					
器	₩			田井0	1	田十0					
	一般財源		17,800千円	17,600年円	19,400丰円	17,600年円	22,350千円		25,300手円		
-	事業質 日十二人			15,753十円		日十9/6,91					
沢 踵											
/ 極				田士0		田士0					
	一般財源			15,753千円		16,976千円					
	①期間内計画額(R4-7)	4-7)		86,800千円	②期間外計画額(R8-	R8-)	田士0	①+②総計画額		8	86,800千円

田士0	次年度への繰越額
17,600千円	当年度の最終予算額
田士0	前年度からの繰越額
	(令和5年度予算額の内訳)

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
出一品	4. 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	# 1	ò	計画値	100			100
	イーを	¥	0	実績値	100	100		
第分#蒙 可分別	一年 古田 年 7 年 日本 7 年 7 年 7 世 日本 7 年 7 年 8 世	# 1	70	計画値	100			
1友1月 ギバレノケニが合う レノ	V1a年三回中台1F及し51を62、CG CV、8	¥	0	実績値	100	100		
Ιŧ	中間ネージ・142 土塔から ジェレナ2 十分の分類	# 1	70	計画値	96	96	96	98
中で通ん	両上及問目にの1,の入抜と必安こ9の土にご不設合い一角に	¥	0	実績値	94	06		

学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な支援を行うことで、特別な支援を必要とする生徒が、安心安全に、かつ自立した学校生活を送ることができている。 事業の目的 中学校の特別支援学級に在籍する生徒 および通常学級に在籍し特別な支援を必 事業の対象 要とする生徒 (

特別な支援を必要とする生徒の個々の状況に合わせて、特別支援学級に在籍する生徒には介助員を、特別支援学級以外に在籍する生徒には学習生活相談員を配置し、必要な支援やサポートを行うことにより、各生徒が安心安全に学校生活を送ることができた。

事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか

再揭)

特別な支援を必要とする生徒が増加する中、多様な学びの実現に向けた支援の必要性は高まっており、教育支援委員会での判定や学校からの要望も踏まえた上で、介助員等を適切に配置するとともに、小学校入学から中学校卒業までの9年間を見通した、切れ目のない支援を行うための体制を構築する必要がある。

成果判定 履歴】

令和7年度 令和6年度 継続(現状維持) **令和5年度** ⋖ 継続(現状維持) 令和4年度 ⋖ 事業展開

加藤 学事教職員GL 政敏 武居 学校教育課長 学校教育課 佪 佪 会事務局 委員会事務/ 皿 育委員 縆 数 数 最終評価者 1次評価者

噩

方向性 現状どおり事業を継続する 継続(現状維持)

教育支援委員会において個々の生徒の実態を「切れ目のない支援を行うため、介助員や学習把握し、必要な支援を検討し、継続的な支援を 生活相談員等の人材を確保する。行う。多様な学びに対応するために必要な人材を確保し、特別支援学級在籍生徒だけでなく、不登校生徒や外国にルーツをもつ生徒を含めた様々な生徒に対する支援を行う。 令和7年度以降で対応するもの 改善・見直し内容 令和6年度で対応する(Lた)もの

⑦事業の展開(∢)

() 異題()

十分な成果を得た

 \triangleleft

 \circ

⑤成果(

事業の達成状況等を踏まえた課題事項

	### \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\	Ī	_			# # # # ** / #	\ \frac{1}{2 x }			上来 (上) 上	7
		22083	· ***	生活西		<u> </u>	5 () () () () () () () () () (評価分類	Al
(-	事業手法	回回	□ 一部委託 □ :		補助等 二	その他(
基施		04:子育てと-	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実	環境の充実		ΥN		₂ 숙計		日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	
		01:子どもた?	01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実	長を支える環境の充.	武			5費		部 教育委員会事務局	松
事 宿体 🌣	施策の方向	05:一人ひと	05:一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進	細かな教育の推進		本口		08:教育研究費		ヿ	5-7.67
		04:「未来へ	04:「未来へのドビラ」プロジェクト				目 01:教育研究費	育研究費		学校教育課	
	事業期間	H 27	年度 ~ R -	年度	主な根拠法令等		生活困窮者自立支援法				
0	事業の必要性(経緯・背景等	緯·背景等)	事業の	事業の対象(誰に、何に対して		事業の目的(ど	事業の目的(どのような状態にしたいのか)		事業の内容	事業の内容(どのような取組を行うのか)	
	生活困窮者自立支援法において「子どもの学習支援の強化」が挙げられている中、家庭生活が困窮していたり、家庭での学習環境が厳しかったりする児童生徒の学習・生活習慣の改善や基礎学力の定着を図り、生徒の意思に沿った進学を支援する必要がある。	SU/て「子どもの Nる中、家庭生、 環境が厳しか・ 環の改善や基7 間の改善や基7 こ沿った進学を		経済的理由で家庭での学習環境が整いにくい小中学生		<u>Eの経済状況に</u> ないよう学習の カ向上を目指 きる力を身に作	こよって 子どもた う支援を行い、 st すとともに、 主や すけさせる。	家庭の経済状況によって子どもたちの学びに差が 生じないよう学習の支援を行い、学習習慣の確立 と学力向上を目指すとともに、主体的に進路を選 択できる力を身に付けさせる。	講師及びスタッフを配置型の教室に通う手段が、 を行う。 を行う。	講師及びスタッフを配置し、集合型の学習支援を行うほか、集合型の教室に通う手段がない児童生徒に対する訪問型の学習支援を行う。	ほか、集合の学習支援
	4年			年 年		今和5年		- 4	- 今和6年		
	 		□ 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		〇講師·スタン	し講師・スタッフの配置 ○渉密券会の事権 予密先遣	河河河	□ 神の子及 □ 世界の子及 □ 講師・スタッフの配置 □ 手級数数をの事権 予密共通	1470 十次 D配置 存 沙엉花道	コイル・十分 の講師・スタッフの配置 の予診教会の事格・予診先過	
	軍持業量		/ M K T L D M	† <u>-</u> 	, 		<u></u>	K			ţ
(m) 	光動集績		講師・スタッフの登録・配置については、受講者数に応じた人数を配置することができた。(年度末時点で23名登録)毎週土曜日の通常開催に加えて、テスト対策数束、 電休丸 約計 (休略教会がど、合計教験、 電休丸 約計 (休略教会がど、合計	・スタッフの登録・配置については、者数に応じた人数を配置することがき。(年度末時点で23名登録)毎週日の通常開催に加えて、テスト対策電水丸お討 (休略教会かど) 今計		対象者を就学援助家庭だけでなく、長期欠席者・外国人児童生徒も対象に加えた。受講者に対して、十分な講師・スタッフの登録・配置することができた。(年度主は占で32を発録)年間十曜日の海営	ナでなく、長期 5対象に加え な講師・スタッ きた。(年度 1曜日の通常				
(の実施状況((計画通り実施できたか)		168回開催した。Parata によれる 168回開催した。Parata については、 基本的に自学自習で進めているが、どの 教室も1対1の丁寧な個別指導ができた。	ずおずこっいては、 習指導については、 S種めているが、どのなるが、 な個別指導ができ	ボビルスで 開催に加えて 室など3教室	1 申録/ 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 2 2 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3				
	事業費		3,900年周	3,200千円		3,900年円	4,144千円	日士006'8	 	3,900千円	
- t	子 国·県支出	御	1,800年用	1,600千円		1,800千円	1,800年円	1,800年円	F	1,800千円	
(三)	算 地方債			日十0							
愛				0千円							
	────────────────────────────────────		2,100千円	1,600千円		2,100千円	2,344千円	2,100千円	 E	2,100千円	
	事業費			2,914千円			3,321千円				
//N		④		1,457千円			1,900千円				
<th< th=""><th>算 地方債</th><th></th><th></th><th>田十0</th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th></th<>	算 地方債			田十0							
ćπ				田十0			E				
	一般財源	í		日,45/十円		· 00/##	1,421十円	1	# 		E

15,600千円

0千円 ①+②総計画額

②期間外計画額(R8-)

15,600千円

①期間内計画額(R4-7)

\Box
6
蹈
陣
٣
麼
卅
Ö
쮸
∜ F

前年度からの繰越額	田士0
当年度の最終予算額	4,144千円
次年度への繰越額	田十0

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
(力) "是这个人会会的一样。"	拉罗 地名人名英格兰	出出	-	計画値	25		30	30
子首教主でい参加入	首教主、ツーツ白数ツロ	***	<	実績値	45	49		
(多) 小区 华 化 中 在 口 苯	中本同类/第二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	1	[計画値	120	120	120	120
自我王夫爬口	旭旦数(米ロギ)のロ	(第口)	ī	実績値	168	171		
(大) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	计争为 的人名 的 人名	计型	[計画値	3	8	3	3
※※歴∵ 、	※ 氷庭・、い多加を割らがいした目	がまり	ī	実績値	3	3		

家庭の経済状況によって子どもたちの学びに差が生じないよう学習の支援を行い、学習習慣の確立と学力向上を目指すとともに、主体的に進路を選択できる力を身に付けさせる。 事業の目的 経済的理由で家庭での学習環境が整い 事業の対象 こくいい中学年

> (||年超)

事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか

⑤成果(

 \circ

落ち着いて学習できる環境を整えた上で、参加児童生徒には、少人数での学習指導が行われ、学習習慣を身に付けることができた。また、テスト対策教室には、中学生の参加が多いが、小学生の受講生も増加しており、週末の家庭学習の定着につながった。さらに、小中学校と各教室をつなぐコーディネーター会議を開催し、情報共有や連携を深めることができ、結果として、中学3年生の受講者は、希 し、肩靱共角や連括。 望する進学ができた。

事業の達成状況等を踏まえた課題事項 十分な成果を得た

き続き、対象となる児童・生徒や対象家庭への案内やチラシ等配付して啓発を行い、受講者 増やし、児童生徒への学びの保障をしていく必要がある。

令和6年度の実施状況を鑑み、必要に応じて対 象児童・生徒の学習習慣の確立や学力向上に 向けた改善・見直しを講じていく。 令和7年度以降で対応するもの 改善・見直し内容 方向性 教室の状況に応じて、該当中学校区の受講者 や家庭にチランを配布し、周知・啓発を行ってい 現状どおり事業を継続する 令和6年度で対応する(した)もの 継続(現状維持)

⑦事業の展開(

継続(現状維持) ⋖ 継続(現状維持) ⋖ 成果判定 事業展開 履歴】

令和7年度

令和6年度

令和5年度

令和4年度

恵美子 岩三 政敏 教育支援GL 武居 学校教育課長 学校教育課 佪 佪 会事務局 委員会事務/ 畖 育委員 縆 数 数 最終評価者 1次評価者

远说

() | | |

O)

			1	1 14 17 1	÷						
	11回二	084	事業4	少人数教	少人数教育雅進事業					評価分類	Al
	事業手法	□■□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	-部委託 🛚 全		補助等] その他(
- 4	施策の大綱	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実	の成長を支える環	3境の充実			会計 01:一般	一般会計		田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	mka
大	基本施策	01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実	かな学びと成長さ	を支える環境の充	黒い	草	10:	費		# 	
	施策の方向	05:一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進	:びを支えるきめ紙	引かな教育の推進	IIII			研究費			4/35/回
	重点プロジェケ	04:「未来へのドビラ」プロジェクト	ラ」プロジェクト			Ш	目 01:教育研究費	研究費		学校教育課	
	事業期間	H 21 年度	~ ~	年度 主	主な根拠法令等	-					
2	事業の必要性(経緯・背景等	緯·背景等)	事業の対象(誰	象(誰に、何に対して)	(7)	事業の目的(と	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	(いのか)	事業の内容	事業の内容(どのような取組を行うのか)	
	主徒へのきめ細かな指 るため、過密学級(1:12ため、過密学級(1:12)	児童生徒へのきめ細かな指導と授業理解度の向 ト寿図みため、過窓学級(1学級35人以上)を盤		過密学級(1学級35人以上)となる学校及びシスタンの大数数音に取り組む学校		童·生徒の実態 将業理解度が	児童・生徒の実態に応じたきめ細かな指導により、将業理解度が向 FLている。	かな指導によ	少人数教育推進教員とし 状況に応じて配置し、過2	少人数教育推進教員として、常勤講師、非常勤講師を各学校の状況に応いて配置し、過家学級を解消するアナギに、少人教教育	mを各学校の 少人数数音
(機要(゚)	少人数教育を推進する	る必要がある。							(学級分割、ティー人・子) 接、専科指導)を行う。	イーチング、少人数単独指注	尊、個別支 1 1
	年度		令和4年度	≤度		令和5年度		11	令和6年度	令和7年度	
	車提業量	Y 小 〇	〇少人数教育推進教員(講師)の配置	員(講師)の配置	〇少人数	〇少人数教育推進教員(講師)の配置		○少人数教育	〇少人数教育推進教員(講師)の配置	○少人数教育推進教員(講師)の配置	黄師)の配置
⊚ #		少の分子の (人の) (人の) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本	数教育推進教員。 小学校に、非常 校と3中学校にそ4	少人数教育推進教員として、常勤講師4 名を3小学校に、非常勤講師を5名を1 小学校と3中学校にそれぞれ配置した。	14 少人数数1 1 名を4小学 学校と3中:	少人数教育推進教員として、常勤講師 名を4小学校に、非常勤講師4名を1小 学校と3中学校にそれぞれ配置した。	ンて、常勤講師4 講師4名を1小 れ配置した。				
⋼₩∊	活動実績										
の実施状況((計画通り実施できたか)	たか)									
Д_	事業費		26,700千円	22,400千円		26,700千円	20,210千円	18,900千円	E 1	11,700千円	
	国·県支出金	④		日十0			田士0				
D 画				0千円	E		0千円				
				0千円	E		田士0			•	
	一般財源		26,700千円	22,400千円		26,700千円	20,210千円	18,900千円	- 日	11,700千円	
	事業費			20,944千円	E		19,502千円				
水	国・県支出金	④		田十0			田十0				
	地方債			田十0	E-		田十0				
多	からも			田士0			田士				
		í		20,944千円	_		19,502千円				
	(1)期間内計画額(R4-7)	(4-7)		84,000千円	\Box	2)期間外計画額(R8-)		0	0千円 (1)+(2)総計画額		84,000千円

					1				
				前年度	前年度からの繰越額	战額			日十0
				当年度	当年度の最終予算額	算額			20,210千円
				次年月	次年度への繰越額	以 客頁			0千円
					:	:			
	指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
海际沿线的光体	42	1. 四级 计 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4.	七	70	計画値	100	100	100	100
	1	同位子校の発行にのた当日	¥ ₩	0	実績値	100	100		
1. ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1		## ##	70	計画値	100	100	100	100
アクダ石や木局大手	同文件	即直付しるアクダカキの大声な手	¥ ₹	9	実績値	100	100		
日華大年の母業開館	EI田 427 庄		## ##	70	計画値	06	06	06	06
元里士作の攻ぎ	長埋胖 /支		*	0/	実績値	06	06		
	事業実施により	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか		業量	事業の対象			事業の目的	
ı	少人数教育推進教 別支経等 旧音生徒	少人数教育推進教員の配置により、ティーム・ティーチングや習熟度別指導、個別も将等。 旧音生徒の実能に応げたか人数教育の推准 きめ細かな指導の帝宝		(1学級3 数教育に	過密学級(1学級35人以上)となる学校 及び少人数教育に取り組む学校		児童・生徒の実態に応じたきめ細かな指導により、授 業理解度が向上している。	ホビたきめ細かな∮ いる。	旨導により、授
◁	を図ることができた。	中(くつこうとは、そのでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、こ							
<u></u>		<u> </u>							

(令和5年度予算額の内訳)

令和7年度		
令和6年度		
令和5年度	V	継続(現状維持)
令和4年度	٧	継続(現状維持)
	成果判定	事業展開
	履歴	#]

改善・見直し内容

方向性

継続(現状維持) 現状どおり事業を継続する

⑦事業の展開(∢)

事業展開 継続(現状維持) 継続(現状維持)		1次評価者 数育委員会事務局 学校教育課 学事教職員GL 加藤 剛	最終評価者 教育委員会事務局 学校教育課長 武居 政敏
0 公番・児童し内谷 令和6年度で対応する(した)もの 令和7年度以降で対応するもの	導員を各校に に対する授業 する「ステップ を通じて、少人	質及び授業力の向上を図る。	

() 異題(

O)

十分な成果を得た

() 東東(

講師人材の確保が難しい状況があり、臨時免許で任用することが増加傾向にある。また、経験の 浅い講師の任用も増加傾向にある。

事業の達成状況等を踏まえた課題事項

□ 直営 □ 一部委託 □ 全部委託 □ 補助等 □ 04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実 04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実 01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実 05:一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進 - R 4 年度 ~ R - 年度 □ 主な根拠法令等
の充実 推進 主な根
の充実性 推進 主な根
進 主な根 ギュケン
な相
な根 /
(/ 末
ここ

令和7年度	○統合型校務支援システム運用 ○システム活用研修		6,500千円				6,500千円						50,100年円
令和6年度	○統合型校務支援システム運用○システム活用研修○システム活用研修○・○○○		6,500千円				6,500千円						11,300千円 ①十②総計画額
令和5年度	○統合型校務支援システム運用 ○システム活用研修	令和5年4月よりシステムの本格運用を開始した。また、システム活用に係る研修会を7回実施したほか、教職員へのアンケート調査を各学期末に実施した。	6,500千円 3,806千円	田士0	田士0	田士0	6,500千円 3,806千円	日士908'8	田士0	田士0	田士0	3,806千円	②期間外計画額(R8-)
令和4年度		令和5年1月よりシステムの試行を開始。するとともに、本格実施に向け、各校にて 基礎情報の登録作業等を行った。また、「 システム導入に係る研修を3回、システンム活用に係る研修を14回(各校1回)実施した。	19,300千円 6,780千円	田士0	田士	田士0	19,300千円 6,780千円	6,149千円	田士0	田十0	田士0	6,149千円	38,800千円
年度	車業計画	事業活動実績のの(計画通り実施できたか)決決	D 事業費		D 画 算 地方債		一般財源	事業費	法 国·県支出金	算地方債	額その他	一般財源	①期間内計画額(R4-7)

	0千円	田士908年	田十0
(令和5年度予算額の内訳)	前年度からの繰越額	当年度の最終予算額	次年度への繰越額

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	Tan 多元十分十十分第一	H t		計画値		15	20	25
対戦・打つロイア数シに	从际夜071 のロイノに、内部07月 씨数(古/	¥	<u></u> I	実績値		15		
(金) 医二种 经 医二种	李朝二二七七二人终群数年周个当诗年周(人称)	H t	目出	計画値		40		80
十二目示さま』でおいて「日」りく)日リ	ラ 人のノこうしノボジョリケガ I寸 I BJ O 7 FJ J M I I T I I I I	¥	<u> </u>	実績値	∞	Δ24		
				計画値				
				実績値				

統合型校務支援システムを活用し、教職員の業務の軽減と効率化を図ることにより、教職員が児童生徒と向き合う時間や、教材研究の時間を確保する。 事業の目的 事業の対象 小中学校の教職員 ||年起) (

システム内の機能を活用することで、打合せ・会議回数の削減につながった。 また、教職員一人あたりの総勤務時間は令和3年度と比べて増加したが、教職員はシステム内で出退勤管理を行うため、正確な在校時間を把握することにつながつ 事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか മ

() 東東(

 \circ

一方、システム活用に係る研修会を7回実施し、システムを活用することで業務の 効率化が図れるよう努めたが、まだ効果が出るまでに至っていない。 まずまず成果を得た

事業の達成状況等を踏まえた課題事項

コロナ禍であった令和3年度と比べて教職員一人あたりの総勤務時間数が増えていることから、学校行事の見直しや教職員が担う業務を精選する必要がある。また、システム導入初年度ということもあり、システムの活用に不慣れな教職員もいたため、システムへの理解を深める取組が必要である。 今後も、システム活用に関する研修会やアンケート調査を実施しながら、教職員の業務改善につながるよう。 () 異題()



Ų⊢		F% 7478				
	成果判定	田田 # 申	₩ ₹			
[(魔歴	∄ 】				
方向性	継続(現状維持) 現状どおり事業を継続する	改善・見直し内容	令和6年度で対応する(した)もの 合和7年度以降で対応するもの	委託業者との連携を図りながらシステムの活用 打合せ事項や回覧・掲示物等のデータ化を進	事例等を市内小中学校で情報共有し、業務の め、業務改善をしていく。	効率化を図る。

⑦事業の展開(

令和7年度

令和6年度

令和5年度 മ

令和4年度 ⋖ 継続(現状維持)

続(現状維持)

臺	
加藤岡	
学事教職員GL 力	田 政敏
	長 武居
学校教育課	学校教育課長
教育委員会事務局	教育委員会事務局
1次評価者	最終評価者

令和5年度決算における標準事業評価一覧表

成果	⋖	⋖	⋖	⋖	⋖	4	⋖	⋖	<
実績・成果	学校運営協議会を中心に、地域や学校ならではの創意 工夫をいかした特色ある学校づくりを推進した。また、ゲ ストティーチャーを招いて体験学習活動や学力向上など 多岐にわたる内容の取組を進めた。	学校運営協議会を中心に地域や学校ならではの創意工 夫をいかした特色ある学校づくりを推進した。ゲストティー チャーを招いて体験学習活動や学力向上など多岐にわ たる内容の取組を進めた。	定期的に学校運営協議会を開催し、たよりを発行することで、活動内容等を周知することができた。	鲁山東小学校体育館屋根改修や関小学校防犯カメラ 改修等、予定していた工事を執行し、学校生活環境の 向上を図った。	中部中学校体育館電源増設工事及び関中学校留守番電話取付工事を執行し、学校生活環境の向上を図った。	市内・県内産の食材を多用した「かめやまっ子給食」を22回実施した。また、給食調理員対象に衛生管理と調理実習の研修会を2回実施し、研修後は作業工程や調理器具の点検を行い、各学校現場での改善につなげることができた。	亀山市文化会館と連携し専門家を招聘し合唱指導の機会や様々な文化公演を行った。また、幼児や児童の体力向上をめざし、各園・各校に専門性のある外部講師を派遣した。	亀山市文化会館と連携し専門家を招聘し合唱指導の機会や様々な文化公演を行った。また、幼児や児童の体力向上をめざし、各園・各校に専門性のある外部講師を派遣した。	全ての中学校で就労体験を実施した。亀山中学校と岡山県高梁中学校との交流を行った。
事業費 (予算額/決算額) [単位:千円]	3,903 / 3,793	760 / 734	1,060 / 818	37,033 / 37,001	615 / 615	290 / 259	1,289 / 1,208	291 / 262	668 / 086
目的・概要	学校運営協議会別に地域及び学校の中にある共通課題や、教育の課題について検討し、地域の教育力を高め、学校教育の改善を推進する。	学校運営協議会別に地域及び学校の中にある共通課題や、教育の課題について検討し、地域の教育力を高め、学校教育の改善を推進する。	保護者及び地域住民等が学校運営に参画することにより学校教育の充実を図り、地域に開かれた信頼される学校づくりを進める。	学習環境及び学校生活環境の向上を図るため、それ ぞれの学校状況に応じた施設整備を実施することによ り、教育のための環境づくりを推進する。	学習環境及び学校生活環境の向上を図るため、それ ぞれの学校状況に応じた施設整備を実施することによ り、教育のための環境づくりを推進する。	学校給食における地産地消を推進し、学校給食の充実を図るため、市内・県内産の食材を多用した「かめやまっ子給食」の提供や、安心・安全な学校給食の提供と食育推進に係る研修を実施する。	成長期にある児童の豊かな創造性、情操の涵養と芸術文化活動の充実向上と、運動習慣及び体力の向上を図る。優れた音楽・芸術を鑑賞する機会を確保するとともに、体力向上に係る外部講師を学校へ派遣する。	成長期にある児童の豊かな創造性、情操の涵養と芸術文化活動の充実向上と、運動習慣及び体力の向上を図る。優れた音楽・芸術を鑑賞する機会を確保するとともに、体力向上に係る外部講師を学校へ派遣する。	中学生期における就労体験や交流学習などの体験活動を通して、生徒の社会性などの健全育成を図る。
租票最	教育委員会事務局 学校教育課 教育支援G	教育委員会事務局 学校教育課 教育支援G	教育委員会事務局 学校教育課 学事教職員G	教育委員会事務局 教育総務課 教育総務G	教育委員会事務局 教育総務課 教育総務G	教育委員会事務局 教育総務課 保健給食G	教育委員会事務局 教育総務課 教育支援G	教育委員会事務局 教育総務課 教育支援G	教育委員会事務局 学校教育課 教育研究G
事業名(評価事業名)	特色ある学校づくり事業(小学校費)	特色ある学校づくり事業(中学校費)	コミュニティスクール推進事業	施設整備費(小学校費)	施設整備費(中学校費)	地場農畜産物利用推進事業	体育·文化活動支援事業(小学校費)	体育·文化活動支援事業(中学校費)	中学校体験活動支援事業
建矢砲気施策の方向	01 01	1 01	01 01	01 02	1 02	01 05	01 03	1 03	01 03
大網基本施策	0 40	04 01	0 4 0	0 40	04 01	0 40	0 40	04 01	0 40
₩ 業 u	19148	19149	19182	19008	19027	19273	19015	19030	19033

令和5年度決算における標準事業評価一覧表

成果	<	<	<	⋖	<	<	⋖	⋖	<
実績・成果	保幼認小間の切れ目のない教育をめざし、教職員が連携し、情報共有することで、きめ細やかな支援体制を整えた。 えた。 各園の若年職員等の指導のための園訪問や研修会を行った。	1.	差別事象の把握や人権・道徳に関わる各校への助言等、従来の取組に加え、亀山市人権教育推進協議会の組織体制の確立、県の人権校育アライメン事業を受け、研究指定した中学校区と県立学校が協働して人権教育の実践研究を進めた。	保育園等において、保護者対象の家庭教育出前講座を行った。また、小中学校では、家庭・地域の教育力事業として、家庭での学習に関する指導・啓発に関する講演を実施した。	適応指導教室で児童生徒と保護者への相談を行った。 教職員のスキル向上のため、研修会を開催した。子ども の居場所づくりのために「かめっ子サポート」に委託し体 制強化を図った。	学校からの要請により、指導主事やスケールカウンセラー。スケールソーシャルワーカーを学校に派遣し、児童生徒の心のケアや関係機関との連携を進めた。	亀山市教育支援委員会を年間4回開催し、特別支援学校や特別支援学級、通級指導教室など、個に応じた学びの場への就学について、就学先の決定につなげることができた。	外国人児童生徒のいる学校へ外国人児童生徒支援員の配置とポランティアの派遣を行った。就学前の幼児や保護者に向けてプレスケールを開催したり、中学校卒業後の進路ガイダンスを開催したりした。	令和5年8月23日~25日に青少年体験活動サマーキャンプを実施した他、各社会教育団体の事業のサポート及び補助金を交付手続きを行った。
專業費 (予算額/決算額) [単位:千円]	2,080 / 1,776	1,430 / 1,095	490 / 347	917 / 652	11,030 / 10,967	2,050 / 1,910	336 / 331	2,990 / 2,836	4,710 / 3,951
目的·概要	就学前からの一貫した教育を実現するため、保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の教職員が連携し、きめ細やかな支援体制を整える。さらに保幼認・小間での交流活動や情報共有を行うための取組を推進する。	基礎的な学力の向上や学ぶ意欲を高めるため、教師の指導力を向上させ、授業改善や学習規律の確立の取組を推進するとともに、教職員研修を充実する。	道徳教育や様々な体験活動を通して、心の発達・規範意識の醸成・問題行動の未然防止に取り組む。学校における人権教育に関する指導方法の改善及び充実に資することを目的とした実践的な研究を実施し、人権教育の一層の推進を図る。	家庭・地域の教育力の向上を図るために、保護者に対して学びの機会を提供し、子どもを見守る祖父母世代、また、子どもの育みを地域全体で支えていく学びの仕組みづくりを進める。	市内小中学校における不登校児童生徒の保護者に対する相談及び児童生徒の学習・生活指導等の支援を図る。	生徒指導では、問題行動が複雑化・多様化し対応・解決が一層困難な事例も出てきている。そのためには、個々の児童生徒の実態把握やいじめその他の問題行動の予防と対策を図る。	発達障がいを含む全ての障がいのある幼児児童生徒の特別支援教育を総合的に推進する。	教室で学習を進める上で言語、学習内容に十分理解できず、学校生活にも困難をきたす外国人児童生徒への学習・生活支援や助言を行うとともに保護者への支援や相談体制も整える。	青少年の健全育成のため、家庭・学校・地域において、 青少年が安全かつ心豊かに成長できる社会環境づくりを 行う。
租票與無	教育委員会事務局 学校教育課 教育支援G	教育委員会事務局 学校教育課 教育研究G	教育委員会事務局 学校教育課 教育研究G	教育委員会事務局 生涯学習課 社会教育G	教育委員会事務局 学校教育課 教育研究G	教育委員会事務局 学校教育課 教育研究G	教育委員会事務局 学校教育課 教育研究G	教育委員会事務局 教育総務課 教育支援G	教育委員会事務局 生涯学習課 社会教育G
事業名(評価事業名)	幼児教育推進事業	教職員研修事業	道徳・人権教育推進事業	子育で学習展開事業	適応指導教室事業	生徒指導充実事業	特別支援教育推進事業	外国人児童生徒教育支援事業	青少年健全育成費
施策の方向		- 03	- 03	1 04	0.2	0.05	0.5	0.5	90
大網基本施策	04 01	04 01	04 01	04 01	04 01	04 01	04 01	04 01	04 01
₩ æ	19105 0	19106	19271 0	19132 0	19111 0	19116 0	19259 0	19286 0	19099 0
TIMIT IKE	9	1 9	1 9	19	1 9	1 9	1 9	1 9	1 9

令和5年度決算における標準事業評価一覧表

成果	<	<	<	<		
実績·成果	補導員により児童・生徒の登下校時等のパロールを実施し、不審者情報などについて、迅速に特別パロール対応とした。また、各地域の非行防止部会等と合同パロールを実施した。	令和6年1月7日に「二十歳の集い」を開催し、青少年の 社会へ踏み出す第一歩のきっかけづくりに寄与した。	支援員による地域・学校など関係機関と連携した活動に より、青少年の相談や自立に向けた支援を行った。	会員の心身の健康づくりや会員相互の交流・親睦を図る「なでして健康フェスティバル」の実施や明るく住みよいまちづくりを推進するため、地域に根差したボランティア活動に取り組んだ。		
事業費 (予算額/決算額) [単位:千円]	13,720 / 13,164	600 / 543	4,566 / 4,500	890 / 800		
目的·概要	日常のパロール活動及び、関係機関との連絡調整等を 行い、当市における青少年の非行防止や環境浄化活動 に努める。	二十歳の集い開催により青少年の社会人としての自立を 促す。	青少年の社会的自立の支援を実施するため、公認心理 土資格を持った支援員を配置し、ひきこもりやニート等の 悩みを持つ青少年に対する相談や自立に向けた支援活 動を行う。	女性の活躍の場や家庭生活の向上を図るとともに、地域社会の発展に寄与することを目的とする、団体の活動を支援する。		
暑堤崇田	教育委員会事務局 生涯学習課 社会教育G	教育委員会事務局 生涯学習課 社会教育G	教育委員会事務局 生涯学習課 社会教育G	教育委員会事務局 生涯学習課 社会教育G		
事業名(評価事業名)	青少年総合支援センター費	二十歳の集い開催費	青少年自立支援事業	婦人団体育成費		
施策の方向	90	90	90	. 01		
大綱 基本施策	04 01	04 01	04 01	05 02		
事海業品	19100	19101	19289	19047		

4 学識経験者による評価

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、2名の学識経験者から意見をいただきました。

【意見をいただいた学識経験者】

宮崎 つた子氏 (三重県立看護大学小児看護学教授)

Balan 朗氏 (三重県立亀山高等学校校長)

(1) 各施策に対する意見

別紙一覧のとおりです。

(2) 総括意見

令和4年度に策定された第2次亀山市総合計画後期基本計画に基づき、施策の大綱、基本施策等に位置付けられた各事業が実施された。その進捗状況は、令和5年5月にようやく新型コロナウイルス感染症の制限が緩和され、以前の活動に戻す雰囲気がでてきた。一方、数年続いた感染症の影響で見えてきた問題や課題については、今後も数年間は注視していく必要がある。そのような中で、亀山市の様々な工夫や取組を活かし、また、不易と流行の視点での事業改善、スクラップ&ビルドの考え方と効率的で効果的なあり方に対する精査を行いつつ、子ども達の育ちと学びのために、さらなる取組や支援を模索していただきたい。

次に、基本施策「学びによる生きがいの創出」については、市民アンケート結果にて令和2年度調査よりも重要度と満足度が向上し、順調に取組の成果が出ており、市民の関心と生涯学習意識が高まっていると思われる。誰もが参加できる学びの環境として市民向けの多種多様な講座を実施している中央公民館活動推進事業、SNS等での情報発信やICT利活用の最新技術学習など、効果的で興味関心の高いテーマで実施されているかめやま人キャンパス等、今後も、市民に広く周知し、市民の学びたいと思う多彩な講座の開講と継続、また養成講座の修了者のリカレント教育なども検討し、地域課題の解決に繋がることを願う。

また、基本施策「子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実」については、それぞれの施策の方向ごとに次のとおりである。

「学びを支える温かさあふれる学校づくり」については、保護者や地域住民等が学校運営に参画し、体験学習や交流活動を通じて成果を上げている。特に、放課後子ども教室に参画した地域ボランティアの延べ人数は、目標値(計画値)をはるかに超えている状況である。一方、支援者の高齢化や人材不足の課題は否めない状況であり、今後、数年先も考慮して、協力していただける人材の確保にむけ、実践活動を周知して理解協力を促していくことも

大切である。

「学びの環境の充実」については、長寿命化計画が策定された中で、児童生徒が安全に安心して学習活動に取り組めるよう、環境整備は計画的に、具体的な時期を示して着手する必要がある。加えて、施設や設備が整っている満足度が低下しているため、要求の高まりからくるものではあるものの、今後も丁寧な説明を行いながら進めていく必要がある。中学校全員喫食制給食実施事業については、物価高騰などの課題等により当初からの計画変更もあったが、今後も地域や保護者の理解を得ながら、生徒の要望を踏まえた給食が着実に実現できるよう進めていくことを期待する。

「希望を持って新しい時代に活躍できる子どもの育成」については、学校評価アンケートの授業満足度の上昇が示すとおり、学力向上推進計画に基づく学力向上に向けた具体的な取組や「全国学力・学習状況調査」、「みえスタディ・チェック」の結果分析が実施され、教職員のさらなる意識改革と個々の教職員の意欲向上にも繋がると考えられる。加えて、GIGAスクール構想で整備された端末を効果的に利用するなど、更なる授業理解度向上に繋げられることを期待する。

「家庭・地域の教育力の向上」については、「かめやまお茶の間10選(実践)」を6割を超える保護者が取り組んだと回答しており、また「亀山っ子」市民宣言の目指す子ども像については、アンケート調査で実感があると回答した割合が年々上昇している。これらの取組は、家庭や地域の意識の醸成になり、地域全体で子どもたちの学びの基礎力・教育力の向上に繋がる重要な活動であると感じられ、その周知定着するための活動を推進していく必要がある。

「一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進」については、特別な支援を必要とする児童生徒が増加し、支援の内容も多様化している中で、児童の実態把握を丁寧に行い、個々の状況に応じた適切な支援を個の学び支援事業として実施しており、インクルーシブ教育の視点からも非常に重要な意味があると思われる。また、にじいろノートの継続活用や個別の指導計画の活用を通して、支援情報が確実に引き継がれる仕組みが確立できており、どの児童生徒も切れ目なく支援が行われていることは保護者にとっても大きな安心に繋がっていると思われる。加えて、長期欠席者や外国人児童生徒を含む生活困窮者の自立支援など、個々に応じてきめ細かく対応し、学校評価アンケートでは、学校満足度が中学校で若干下がったものの90%を超える高い満足を得られている。さらなる目標達成に向け阻害要因を分析し、改善に向け迅速に着手されるよう期待する。

教育委員会の事務に関する点検・評価 意見記入シート(宮﨑つた子氏)

	施策の大綱 基本施策	施策に対する意見		施策の方向	区分	事業名	課グループ名	施策の方向(事業)に対する意見		
	健康で生きがいを持てる 学びによる生きがい 暮らしの充実 出	誰もが学べる機会提供の充実に向けて「地域課題の解決に生かせる学びの展開」「市民活動の展開」「誰でも学べる環境づくり」の放策については、市民アンケートの結果がいずれも令和2年度調査が(現状値)よりも重要度および満足度が上昇しており、市民の関心と生涯学習意識が高まっていると思われます。これらは、誰もが参加できる学びの環境として市民向けの多種多様な講座を実施してい中央公民館活動推進事業や市民が活躍できる人材の育成事業取り組みおよび実績値からも施策の方向性は適切に事業展開に結びつくものになっていると思われます。今後も、市民に広く周知すると共に市民の学びたいと思う多彩な講座の開講と継続、養成講座の修了者のリカレント教育なども検討し、地域課題の解決につながるとを願っています。	他欠 る in の	地域課題の解決に生かせる学びの展開	主要	地域の学び推進事業	生涯学習課社会教育の	地域の学び推進事業として、誰もが参加できる学びの環境として「中央公民館活動推進事業」では学びの入口として市民向けの多種多様な講座を実施されています。また、市民が活躍できる人材の育成では、第2期のかめやま人キャンパスを学ぶ内容が深まっていくステップアップ方式のカリキュラム「まちのインフルエンサー」「まちのせんせい」養成講座の初年度として取り組みや支援がなされております。地域の学び推進事業として、市民一人ひとりが学びを通して新たな生きがいを得るための機会が提供できていると思います。 事業の実施状況では、中央公民館活動事業として中央講座の開催が132回、出前教室の開催が86回とその活動実績からもその内容の充実は評価できます。また、「かめやま人キャンパス展開事業」は、3年を1期とした初年度として、かめやま人キャンパス講座を15回開催されており、その結果、修了者17名をかりかき人として認定するなど、学びを通した生きがいづくりと、地域課題の解決に取り組む人材の育成・確保につなげることができています。 昨年度(令和4年度)は新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、公民館・かめやま人キャンパス・行政出前講座の受講者数の実績値は、計画値の3割にも達していませんでしたが、令和5年度は安定した生涯学習講座を展開できており、受講者数は計画値を大幅に超えるなど、その成果は情報発信の方法の工夫、きめ細やかな広報活動、講座内容の充実などの多要素の努力が成果につながっていると高く評価できます。 今後も各講座内容の更なる充実を図っていくなど、魅力ある講座を展開し、広く市民が学べる事業展開を引き続きお願いしたいと思います。また、毎年認定されるかめやま人育成後のフォローアップやリカレント教育、サポート支援をしていただきながら安定した体制の構築を期待しています。		
		子育てと子どもの成長を支える環境の充実の施策の大綱、その基本施策の子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実は、地域での体験学習や地域の大人の交流活動を通じて、地域の中で子どもが育まれる居場所の提供にも繋がっています。「放課後子ども教室」は感染症で一部中止の期間や教室があったが、全小学校区で実施することができていることも素晴らしいと思います。特に、放課後子ども教室に参画した地域ボランティアさんの延べ人数(年間)が目標値(計画値)をはるかに超えており、事業目的からも大きな成果だと思います。しかし、運営に関わる支援者の高齢化や人本不足の課題は否めなく、今後は、数年先も考慮して、多くの地域ボランティアさんの参画を促していただき、運営に関わる人の高齢化	ţ.	学びを支える温かさあふれる学校 づくり	主要	放課後子ども教室推進事業	生涯学習課社会教育の	人数(年間)は6,224人と目標値(計画値)をはるかに超えており、事業目的からも素晴らしい成果だと思います。ただし、延べ人数での実績のため、特定の地域ボランティアさんの参画による実績であった側面もあり、数年先も考慮して、今後も多くの地域ボランティアさんの参画を促していただき、運営に関わる人の高齢化や人材不足の課題など、引き続き検討していただきたいと思います。		
施		や人材不足の課題なども継続して検討していただけたらと思います。	及り、人材不足の課題なども継続して検討していただけたらと思います。 電山市が市内小中学校全校で開始している「コミュニティ・スクープは、各学校が地域や保護者等と連携した特色ある学校づくりといえます。また、各学校の実践資料(たより)の発行は、地域や保護との連携にも繋がっていると思います。 デリバリー給食実施事業は、心身の成長が著しい中学生に対し、	や人材不足の課題なども継続して検討していただけたらと思います。 亀山市が市内小中学校全校で開始している「コミュニティ・スクール」は、各学校が地域や保護者等と連携した特色ある学校づくりといえます。また、各学校の実践資料(たより)の発行は、地域や保護		Ş	標準	特色ある学校づくり事業(小学校費)	学校教育課教育支援(特色ある学校づくり事業では、小学校・中学校ともに、学校運営委員会を中心に特色ある学校づくりを ・推進されています。特にゲストティーチャーを招いての体験学習などの取り組みは児童・生徒にとって大 きな学びの機会になったと思われます。引き続き、地域の歴史や文化がもつ亀山市の教育力が学校の中
策評		ル」は、各学校が地域や保護者等と連携した特色ある学校づくりと いえます。また、各学校の実践資料(たより)の発行は、地域や保護 ※				標準	特色ある学校づくり事業(中学校費)	学校教育課教育支援(で発揮されることを期待します。 「コミュニティ・スクール」は、各学校が地域や保護者等と連携した特色ある学校づくりといえます。各学	
価		者との連携にも繋がっていると思います。 デリバリー給食実施事業は、心身の成長が著しい中学生に対し、 栄養バランスの考えられた昼食を提供するため、昼食の提供を実施			標準	コミュニティスクール推進事業	学校教育課学事教職員(■校の実践を資料(たより)にまとめて発行するなど、各学校運営に対する支援がうかがえます。 ;		
		してもらっています。中学校全員喫食制給食実施事業については、 物価高騰などの課題等がある中で、当初からの計画変更もありまし	価	価 学びの環境の充実	主要	学校施設長寿命化計画策定事業	教育総務課教育総務(学校施設長寿命化計画策定事業は、限られた予算の中で、小中学校施設の老朽化等を適切に把握 し、修繕、改善等の優先順位を制定するなど、中長期的な計画が策定に取り組まれていると思われます。 デリバリー給食実施事業は、心身の成長が著しい中学生に対し、栄養バランスの考えられた昼食を提供		
		たが、実施に係る基本的な計画を策定されて当該事業の方向性が 示されています。 児童生徒の学力の向上の目的に、教職員研修や中学校への運			主要	中学校デリバリー給食実施事業	教育総務課保健給食(するため、委託業者との打合せと新メニューの取り入れにより、献立内容の改善を図りながら年間181回の 実施がされました。また、生徒対象のアンケートにおける肯定的回答の割合も計画値を上回っています。		
		動部支援員を派遣なども継続的に実施されています。このように学力向上推進計画を策定し、学力向上に向けた具体的な取り組みや 結果を分析・報告は、今後の教職員のさらなる意識改革と個々の教	·		主要	中学校全員喫食制給食実施事業	教育総務課教育総務G 教育総務課保健給食G	しかし、数値の上昇だけで評価するのではなく、生徒自らの食に対する関心が高まっているのか、食行動 の改善や規則正しい食習慣が身についている、その実態と本事業を合わせて検討していくことが大切と 思います。		
		職員の意欲向上にも繋がると考えます。 個の学び支援事業では、特別な支援を必要とする児童・生徒が地加している状況が背景にあり、支援が必要な児童・生徒や別室での			学びの環境の充実	学びの環境の充実	標準 施設整	施設整備費(小学校費)	教育総務課教育総務の	中学校全員喫食制給食実施事業については、物価高騰などの課題等がある中で、当初からの計画変 , 更もあったが実施に係る基本的な計画を策定されています。 施設整備に関しては、予定していた改修工事が執行されており、学校生活の環境の向上が図られたと
		個別対応が必要な児童・生徒など、支援の内容も多様化しています。そのような中、児童の実態把握を丁寧に行い、個々の状況に応じた適切な支援を実施する本事業は、インクルーシブ教育の視点が	ā		標準	施設整備費(中学校費)	教育総務課教育総務の	思います。給食調理員さんへの研修後は作業工程や調理器具の点検がなされております。今後も安心・ 安全な学校給食の充実のために、研修後に限らず定期的な環境点検、衛生管理行動の徹底などがが重要と思います。		
		らも非常に重要な意味があると思われます。 亀山市は、0歳児からのにじいろノートの継続活用、個別の指導計 画を活用し、適切な支援を継続するとともに、支援情報が確実に引	+		標準	地場農畜産物利用推進事業	教育総務課保健給食(;		
		き継がれる仕組みが確立できております。個別の指導計画等を作成し引継ぎができている児童・生徒の割合は100%と、どの児童・生徒も切れ目なく支援が行われていることは保護者にとっても大きな安心に繋がっていると思います。 「亀山っ子」市民宣言や亀山市オリジナルの「かめやまお茶の間10選(実践」などの取り組みは、家庭や地域の意識の醸成になり、地域全体で子どもたちの学びの基礎力・教育力の向上に繋がる重要な活動であると感じています。 数年続いた新型コロナウイルス感染症の影響で、本来様々な交流事業等を通して多方面から学ぶべき年齢に交流の機会や出会える機会が制限されていた問題や課題が、今後も数年間は注視していく必要があると考えます。亀山市の様々な工夫や取り組みを活かし、事業計画の実施や実績値には見えない子ども達の姿を施策の方向性と合わせて丁寧に、そして根気よく確認しながら、子ども達の		希望をもって新しい時代に活躍で きる子どもの育成	主要	学力向上推進事業	学校教育課教育支援(全教職員への研修会、教職員経験の浅い教員への研修機会、国語科共通テスト等が実施されています。運動部活動支援員の派遣では、運動部活動支援員として5名の登録があり、累計395回実施するなど、指導力の向上と授業改善につなげる取り組みが実施されており、計画値を大きく上回っています。このように、教職員への学力向上研修会の開催や運動部支援員を派遣し教職員の時間を確保したこと、「全国学力・学習状況調査」と「みえスタディ・チェック」の結果を分析し報告は、各校および個々の教職員の意欲向上のためにも重要だと思います。「全国学力・学習状況調査」と「みえスタディ・チェック」の結果より、全国・県平均を下回る「読む力、読み取る力」の領域で全国、県平均に比べて小中学校ともに課題はあるが、これらは、教員の授業力向上だけでは解決できない要因もあるように感じています。学校での学習を個々の児童・生徒自身が主体的に取り組めているのか、この教科が好きだと思えているか、学力向上に繋がる様々な影響要因も合わせて検討していくことが大切だと思います。限られた支援やアプローチに留まらず、日常生活の中で本に親しんだり、人の話を聞けるなど、「確かな学力」の向上を目指して、引き続き学校と家庭、地域と連携を取りながら、あらゆる側面からの学習支援活動をお願いしたいと思います。		

教育委員会の事務に関する点検・評価 意見記入シート(宮﨑つた子氏)

	施策の大綱	基本施策	施策に対する意見		施策の方向	区分	事業名	課グループ名	施策の方向(事業)に対する意見
			育ちと学びのために、さらなる取り組みや支援を模索していただきたいと思います。引き続き、学校・家庭・地域と連携・協力しながら誰ひとり取り残さない学びの展開とその構築に取り組んでいただく事を願っております。			主要	学校図書館支援事業	学校教育課教育研支援G	学校図書館支援事業では、年度計画に沿って、学校図書館情報システムの運用・管理や学校司書、図書館活用アドバイザーを配置し、各校に月1,2回程度、14校に計168日派遣がされています。さらに、読書リレーを幼稚園4園と小学校低学年を対象に10週間程度実施、読書チャレンジを市内全保育所・幼稚園、全小学校で実施しています。しかし、昨年度評価と同様に、配置数や活動実績数で児童・生徒の主体的な読書習慣の確立につながっていると判断するのはやや不安があります。これらの事業実績数と「児童生徒の読書習慣の確立、読書の質の向上、家庭における読書習慣の定着」とはイコールではありません。この取り組みが、近い将来の学力向上推進事業の「読む力」にも大きく影響する大切な事業のため、引き続き、学校と家庭、地域と連携を取りながらあらゆる側面からの支援を影願いしたいと思います。 GIGAスクール構想推進事業では、国が示したロードマップに沿った環境の整備を行うとともに、教員のICTを使った授業の指導力向上を図り、子どもたちの情報活用能力を育成する事業として進めてもらって
施				事務	希望をもって新しい時代に活躍で きる子どもの育成	主要	GIGAスクール構想推進事業	学校教育課教育研究G	います。また、これらの事業は端末等の更新時期も早く、予算的にも大きな部分であると思います。さらに ICT活用や情報モラル教育(生成AIの進歩)内容も、その時代、その年度、児童・生徒の年齢にあった内容を吟味しながら強化していく必要があります。子ども達、保護者に対しても適切な取り扱いを示せる準備が学校・教員共に必要だと思います。ICTや情報関連のスピードに合わせた正しい活用方法を教授するためにも、新たな視点とスピード感で常に確認・検討を続けていただけるようにお願いいたします。
策評価	子育てと子どもの成長を			事業評		主要	英語教育推進事業	学校教育課教育支援G	英語教育推進事業では、ALT(JET・派遣委託)は5名を任用し、児童生徒は、授業や休み時間においてもネイティブな英語に触れる貴重な機会が提供できています。英語デイキャンプでは22名の児童が参加するなど、限られた人数でも小学生が楽しく英語に親しむ機会を提供できていると思います。中学校での英語試験や共通テストでは、生徒の総合的な英語力を把握し課題を見つける機会になったと思わるが、CEFR AIレベル相当以上を達成した中学生の割合が目標値には達していない現状などからも、今後は授業改善と合わせて、生徒自ら「授業が理解できた」と思えることが大切と思います。
	支える環境の充実	と成長を支える環境の充 実		価		D31. 1	体育·文化活動支援事業(小学校費) 体育·文化活動支援事業(中学校費)	学校教育課教育支援G 学校教育課教育支援G	体育・文化活動支援事業、体育・文化活動支援事業、中学校体験活動支援事業、道徳・人権教育推進 事業等ともに目的にそった事業が実施できていると思います。中学校体験活動支援事業では体験や交
						標準	中学校体験活動支援事業	学校教育課教育研究G	流が実施できているが、特徴的な体験内容等が明記されていなかったのが残念でした。幼児教育推進事業では、保幼認と小間での情報共有は、就学前からの切れ目のない教育支援として重要であり、亀山市
						標準	幼児教育推進事業	学校教育課教育支援G	のきめ細やかな支援体制の大きな特徴ともいえると思います。 教職員研修事業では多くの研修を実施さ 📗
						標準	教職員研修事業	学校教育課教育研究G	れているが、実施回数にとどまらず、研修後の個々の教員の授業力向上の自己分析などと合わせて総合 的に評価をしていくことが児童・生徒の学力向上のためにも重要と思います。
						標準	道徳・人権教育推進事業	学校教育課教育研究G	FMに肝臓をしていてこが儿童 工作の子が同工のためにも重要と心でより。
					家庭・地域の教育力の向上	標準	子育て学習展開事業	生涯学習課社会教育G	保育園では保護者対象の出前講座、小中学校では、家庭での学習に関する指導・啓発に関する講演の実施などがなされていたと思います。亀山市では日々、子どもと保護者(家庭)に対して生活習慣の確立の大切さや亀山市オリジナルの「かめやまお茶の間10選(実践)」、子どもの自己肯定感の向上を図るための関わりがなされており、その関わりも重要な子育て学習支援だと感じています。今後も家庭や地域の意識の醸成をはかり、地域全体で子どもたちの学びの基礎力向上に繋がる取り組みを継続していただきたいと思います。

教育委員会の事務に関する点検・評価 意見記入シート(宮﨑つた子氏)

	施策の大綱 基本施策	施策に対する意見		施策の方向	区分	事業名	課グループ名	施策の方向(事業)に対する意見									
					主要	個の学び支援事業(小学校)	学校教育課学事教職員G	個の学び支援事業(小学校・中学校)は、特別な支援を必要とする児童が増加している状況が背景にあります。基礎疾患や医療的ケアが必要な児童・生徒、別室での個別対応が必要な児童・生徒など、支援の内容も多様化しています。そのような中、児童・生徒の実態把握を丁寧に行い、個々の状況に応じた適切な支援を実施する本事業は、インクルーシブ教育の視点からも非常に重要な意味があると思われます。亀山市は、0歳児からのにじいろノートの継続活用、個別の指導計画を活用し、適切な支援を継続するとともに、支援情報が確実に引き継がれる仕組みが確立できております。個別の指導計画等を作成し引									
					主要	個の学び支援事業(中学校)	学校教育課学事教職員G	継ぎができている児童・生徒の割合が100%と、どの児童・生徒も切れ目なく支援が行われていることは保護者にとっても大きな安心に繋がっていると思います。また、学校満足度調査で保護者の満足度が中学校では目標値に及ばないものの高評価を維持しています。限られた環境下で支援の内容も多様化している現状から、すべての要望や希望を達成するのは非常に難しいと思いますが、今後も個々の児童・生徒の状況に沿った支援を継続していただきますようにお願いします。									
					主要	生活困窮者自立支援事業(学習支援事業)	学校教育課教育支援G	■特別な支援を必要とする児童・生徒が安心安全に学校生活を送ることができるように、小学校では、介助員さんを42人、生活支援員さんを2人、学習生活相談員さんを8人、看護師さんを2人の配置、中学校では、介護員さん7人、学習生活相談員さんを3人配置できており、人材確保にとてもご苦労があったことと推察できます。この配置実績や保護者の満足度からみても、特別な支援を必要とする児童・生徒が、安心安全に、かつ自立した学校生活を送ることができていると高く評価できると思います。今後は、特別な支援が必要な児童・生徒が公立学校に増えることが予想されるため、配置されている専門職が適切に対応で									
					主要	少人数教育推進事業	学校教育課学事教職員G	きるスキルや資質の向上がはかれる研修の機会、少人数専門職種の悩みや不安相談に対応できるアドバイザー的人材を育成・確保していくことも必要になってくると思われます。 生活困窮者自立支援事業(学習支援事業)では、講師・スタッフの登録・配置が受講者数に応じた人数を配置することができ、毎週土曜日の通常開催に加えて、テスト対策教室、夏休みお試し体験教室など、合計171回の開催は目標値を大きく上回っています。学習教室の申し込み数の合計も目標値より大幅に									
施策				一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進	第 本	八してが子して入れるでが帰	かな教育の推進	かな教育の推進	かな教育の推進 業 評	かな教育の推進	かな教育の推進		かな教育の推進	主要	校務支援システム事業	学校教育課学事教職員G	多く、どの教室も丁寧な個別指導がなされていることがうかがえます。また、昨年度に続き、中学3年生の全ての受講者は希望する進学ができたなど、学習の支援を通して学習習慣の確立と主体的に進路を選択できる力を身に付けさせることができた喜ばしい実績だと思います。また、生活困窮者自立支援事業(学習支援事業)では、継続して参加している生徒は一定数おり、その数は増えているものの限られた生徒の参加になっている可能性もあります。生徒の進路保障に繋げるためにも保護者への丁寧な説明と生徒自身の学習意欲がもてるように継続して支援をお願いします。
評価			評価							標準	適応指導教室事業	学校教育課教育研究G	少人数教育推進事業においては、少人数教育推進教員として、常勤講師4名、非常勤講師を4名を配置され、過密学級は解消されて、その推進も図ることができていると思います。 臨時免許での任用や経験の浅い講師の任用も増加傾向にあることから、これらの講師への精神的な不安軽減も継続していくことが大切だと思われます。 校務支援システム事業では、教職員の業務の軽減と効率化、教職員が児童生徒と向き合う時間や、教				
			Щ		標準	生徒指導充実事業	学校教育課教育研究G	材研究の時間を確保することを目指していますが、教職員一人あたりの総勤務時間の削減時間(令和3年度比較)の目標値からはまだ半数近い実績値にとどまっています。準備期は過ぎたと思われますが、日常的な業務の効率化としての安定した成果(効果)には、もう少し時間を要すると思われます。 適応指導教室事業では、児童生徒と保護者への相談や子どもの居場所づくりのために「かめっ子サポート」と連携、生徒指導充実事業では、カウンセラーやワーカーとの連携、特別支援教育推進事業では個別対応など、適切に事業運営・実施がなされています。個々の児童生徒の実態把握や対策を図るため									
					標準	特別支援教育推進事業	学校教育課教育研究G	にも、児童・生徒の心のケアや関係機関と連携しながら、実際の不登校児童生徒教やいじめの実態把握等と合わせて事業評価をしていくことが大切と思います。外国人児童生徒教育支援事業においては、通訳の配置や翻訳サポートに加え、就学前に学校生活を体験する「プレスクール」などは、児童と保護者にとって安心に繋がる効果的な取り組みと思われます。また対象生徒全員が第一希望進路に繋がっていることは各担任の関りや各学校の支援体制として高く評価できます。									
					標準	外国人児童生徒教育支援事業	学校教育課教育支援G										
			₹ Ø	青少年の健全育成と青少年活動 D促進	標準標準	青少年健全育成費 青少年総合支援センター費 二十歳の集い開催費	生涯学習課社会教育G	青少年健全育成費、青少年総合支援センター費、二十歳の集い開催費は適切な事業開催等の支援として実施がなされていると思います。青少年自立支援事業においては、支援員による地域や学校など関係機関と連携した活動により、青少年に対する支援を推進できていると思います。今後は、社会的自立支援の必要な対象数や支援後の動向についても実態把握をしながら中長期的に評価をしていく事が大切と思われます。									
	+D 4 = 4 4 7 7 1 1 1	/u		市民活動の活性化と協働の		青少年自立支援事業	生涯学習課社会教育G										
	市民力・地域力の活性化 市民参画・交流活動の 進と協働の推進	促	才	市民活動の活性化と筋働の 推進 	標準	婦人団体育成費	生涯学習課社会教育G	現状の取り組みについては評価できます。将来的には「婦人団体」として取り上げる必要がないような社会・文化になるべきと考えます。									

教育委員会の事務に関する点検・評価 意見記入シート(廣島朗氏)

	施策の大綱	基本施策	施策に対する意見		施策の方向	区分	事業名	課グループ名	施策の方向(事業)に対する意見
	健康で生きがいを持てる 暮らしの充実	学びによる生きがい <i>の</i> 創 出	令和4年度に策定された第2次亀山市総合計画後期基本計画の当基本施策では、市民が豊かに学び、それぞれの学びの成果によって、地域社会で活躍している姿を目指されています。折しも令和5年度5月にようやく新型コロナウイルス感染症の制限が緩和され、以前の活動に戻す雰囲気でてきました。このことと新図書館開館による追い風もあり、市民アンケートにおいて令和2年度調査よりも重要度と満足度が向上し、順調に取組の成果が出てきています。 令和4年度まで3年間の第1期完了時に輩出された「かめやま人」17人の方々が、亀山人キャンパスでの講師をはじめ、亀山市における様々な活動場面において活躍されていることは素晴らしいことです。また令和5年度から始まった第2期入門編においては、「まちのインフルエンサー養成講座」「まちのせんせい養成講座」において、SNS等での情報発信や、ICT利活用の最新技術学習など、効果的で興味関心の高いテーマ内容にて実施されていることも評価できます。今後も地域社会で活躍している新たな人材を掘り起こしていただき、学びの循環として第2期「かめやま人」の育成を期待します。また、様々な学びが一覧できる「学びのガイドブック」は見やすく充実した冊子で、各家庭に配布することで市民に周知されてきています。 今後も不易と流行の視点で、多様な市民のニーズを踏まえた講座展開へ改善が図られるとともに、スクラップ&ビルドの考え方と、効率的で効果的なあり方に対する精査を進めていただきますことを期待します。また既に認定された「かめやま人」の交流とフォローアップも引き続きお願いします。		地域課題の解決に生かせる学びの展開	主要	地域の学び推進事業	生涯学習課社会教育G	市民一人ひとりが学びや生きがいを得られるよう、かめやま人キャンパス講座や中央公民館講座が継続して実施され、「学びのガイドブック」発行による周知、新図書館の開館による学びの環境整備もあり、地域における学びの機会の提供が充実できています。新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことも影響しているのか、中央公民館事業の開催講座数が出前講座から中央講座へシフトし、中央講座が前年度比1.6倍開講して充実されました。このことを含めて受講者数は昨年度比8.5倍以上となり、目標値をはるかに上回る結果となっています。新図書館の開館による利活用促進も大きな要因と考えられますが、「学びのガイドブック」発行にて周知してきたことが市民に定着し、新たに第2期かめやま人キャンパスが始まったことなど、多くの素晴らしい取組が連動した結果であると考えます。それぞれの開設講座を実施する中で、各講座受講者数と受講者アンケート結果等により、より重要度と満足度が高まるよう精査され、改善されることを期待しています。
施策			上げていただいています。コミュニティスクールだより等を作成して発信されている学校数も増えてきています。高齢化等の影響で人材不足が課題となっていますが、協力していただける人材	充力つ イ学と込響すこ 調で時別ま踏―…るう事 務 事 業 評 価	学びを支える温かさあふれる学校 づくり	主要	放課後子ども教室推進事業	生涯学習課社会教育G	各小学校内でインフルエンザ等の感染症による学級閉鎖等による一部中止となった放課後子ども教室もあったようですが、全ての小学校区において昨年度を上回る開催されたことにより、計画値を大きく上回る参加児童数となったことは評価できます。しかしながらこれまで課題であった運営に関わる人の高齢化や人材不足のため、放課後子ども教室に参画した地域ボランティアの延べ人数が昨年度を下回る結果となりました。参加する子どもが安心・安全に過ごせる教室環境を維持継続するためには、地域ボランティア人材の確保が必要不可欠となります。 今後も目的達成のために、全ての小学校区コーディネーター間での意見交換・情報交換をはじめ、各団体等の協力や各種地域活動等での情報収集等、粘り強く地域ボランティアの人材確保に努めていただきたい。
評価			学びの環境の充実では、学校施設の老朽化への劣化状況調査を終えて計画が策定されました。児童生徒が安全に安心して学習活動に取り組めるよう、環境整備は計画的に、具体的な時期を示して着手される必要があります。また中学校全員喫食制			標準	特色ある学校づくり事業(小学校費)	学校教育課教育支援G	特色ある学校づくり事業では、学校運営委員会を中心に創意工夫され、ゲストティーチャーを招いて体験学習活動や学力向上などの内容に取り組まれ、各学校で成果をあげられています。今後も引き続き
			給食実施にむけては、手法を変更して令和8年度実施となりました。今後も地域や保護者の理解を得ながら、生徒の要望を踏まえた給食が着実に実現できるようすすめていかれることを期待します。市民アンケート調査では小中学校の施設や設備が		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	標準	特色ある学校づくり事業(中学校費)	学校教育課教育支援G	一取り組みを継続されて学校教育の改善を推進していただきたい。 またコミュニティスクール推進事業では、保護者や地域住民等が学校運営に参画される学校運営協議会を定期的に開催し、活動内容をたよりにて周知されるなど、地域に開かれた信頼される学校となるよ
			整っている満足度が低下していますので、要求の高まりからくる ものではあるものの、今後も実現への説明を丁寧に行いながら 取り組みをすすめていく必要があります。			標準	コミュニティスクール推進事業	学校教育課学事教職員G	づう取り組まれています。今後も学校運営や学校支援への協力体制が機能するよう、教育委員会の支援を引き続きお願いします。
			希望を持って新しい時代に活躍できる子どもの育成では、全国学力・学習状況調査等の結果を分析されて課題改善に取り組まれ、学校評価アンケートの授業満足度は上昇しています。 さらにGIGAスクール構想で整備された端末を効果的に利用す			主要	学校施設長寿命化計画策定事業	教育総務課教育総務G	学校施設長寿命化計画策定事業では、昨年度からの劣化状況調査 を基に、課題等を洗い出して学校施設等長寿命化計画が策定された ことから、事業として適正に行われたと判断できます。子どもたちの豊 かな学びと成長を支えるための環境を充実させていくことは重要であ
			るなどして更なる授業理解度向上につなげられることを期待します。 家庭・地域の教育力の向上では、「かめやまお茶の間10選			主要	中学校デリバリー給食実施事業	教育総務課保健給食G	り、現在、小中学校における施設整備を必要最低限で行っていただ いているところですが、今後も老朽化が進んでいると判断された建築 物への緊急対応を含め、計画を基にして具体的に着手していただき
			(実践)」の取組が行われ、アンケート調査から6割を超える保護者が取り組んだと回答されています。また「亀山っ子」市民宣言の目指す子ども像については、アンケート調査で実感があると		学びの環境の充実	主要	中学校全員喫食制給食実施事業	教育総務課教育総務G 教育総務課保健給食G	ますようお願いします。 中学校デリバリー給食実施事業では、栄養バランスを考慮した昼食 を提供され、一定の新メニュー開発と満足度を維持されていることか
		回答した割合が年々上昇しています。今後も家庭や地域全体で子育てする意識を醸成するため、その周知定着するための活動を推進していく必要があります。			標準	施設整備費(小学校費)	教育総務課教育総務G	ら評価できます。 一方では、中学校全員喫食制給食実施事業は財政面及び用地確 保の課題から、外部調理委託による食缶搬入方式に手法が変更さ	
					標準	施設整備費(中学校費)	教育総務課教育総務G	れ、令和8年度実施となりました。ついては、物価高騰の中で生徒の満足度や要望を満たしていくことは大変でありますが、保護者の理解 協力を得ながら給食利用者満足度が高まるよう、地場農産物の利	
			じて人的配置等をし、個々に応じてきめ細かく対応していただいているところです。学校評価アンケートでは、学校満足度が中学校で若干下がったものの90%を超える高い満足を得られています。 ************************************			標準	地場農畜産物利用推進事業	教育総務課保健給食G	用、安全な衛生管理を意識しながら、引き続き献立改善をお願いします。
		ています。さらに目標達成に向けては、阻害要因を分析されてできるところから改善にむけて迅速に着手されるよう期待します。			希望をもって新しい時代に活躍で きる子どもの育成	主要	学力向上推進事業	学校教育課教育支援G	学力向上推進事業では、令和4年度に策定された学力向上推進計画【第4版】の取組にある教職員研修が着実に行われ、また例年行っている国語科共通テストも「読む、読み取る力」に重点を置いて作成するなど、工夫改善して取り組まれたことを評価します。教育活動の成果は一朝一夕で反映されるものではないわけですが、常に結果に対する課題を分析し、地道に、工夫や改善策を講じていくことが大切ですので、実績値の増減に対する分析と、新たな改善取組が必要となってくると考えます。

教育委員会の事務に関する点検・評価 意見記入シート(廣島朗氏)

	施策の大綱	基本施策	施策に対する意見		施策の方向	区分	事業名	課グループ名	施策の方向(事業)に対する意見	
						主要	学校図書館支援事業	学校教育課教育研支援G	学校図書館支援事業では、子どもたちの読書離れが懸念されている中、昨年度同様に全小中学校に図書館司書や図書館アドバイザーを配置し、幼稚園・小学校で読書リレーや読書チャレンジの取組を実施されましたが、小学校での授業時間以外での読書状況の割合が著しく低下しました。日常の教育活動の中で、読書を推進する取組を意識的に展開するなど、総力を挙げてあらゆる場面での推進取組が必要であると考えます。 GIGAスクール構想推進事業では、情報機器等の環境整備を計画的に行っていただいてきたことで、教職員のICT利活用スキルが向上	
						主要	GIGAスクール構想推進事業	学校教育課教育研究G	し、生徒の情報活用能力が高まり、タブレット端末を学習場面で普段 使いできる生徒が多くなっていると評価できます。 並行して取り組むべき課題は、人権教育や生徒指導上で問題と なっているSNS利用方法を含めた新たな課題に対応する情報モラル 教育を推進するとともに、最新の生成AI利用に関するガイドランにもと づく指導も併せて必要であると考えますので、早急に取り組まれること をお勧めします。	
				事	希望をもって新しい時代に活躍で きる子どもの育成	主要	英語教育推進事業	学校教育課教育支援G	英語教育推進事業では、令和4年度と同様に、ALTを5名配置して授業や休み時間でネイティブな英語に触れる機会を設けたり、英語キャンプを実施して英語に親しむ機会を設けたりして取り組まれていることが評価できます。継続して取り組むことで活動が周知されて希望者が増えていくことが期待されます。人材確保が大変であるわけですが、今後も人的配置を宜しくお願いします。 一方、英語でやりとりできる中学生の割合が下がっていますので、「話す・聞く・読む・書く」4技能を客観的に把握され、その課題解決に向けて実践的な研修内容に取り組まれることを期待します。	
施策	・ 子育てと子どもの成長を 子どもたちの豊かな学びと	務事	事 	標準	体育·文化活動支援事業(小学校費)	学校教育課教育支援G	体育・文化活動支援事業では、専門家による合唱指導等の文化公 演や、体力向上をめざして外部講師を各学校へ派遣するなど、体 育・文化活動へ支援していただきました。また中学校体験活動支援 事業では、中学生の就労体験を通して社会性などの健全育成にむ			
評価	支える環境の充実	成長を支える環境の充実		業一種		標準	体育·文化活動支援事業(中学校費)	学校教育課教育支援G	けて各校において取り組まれました。心の働きを豊かにする情操教育 や体力向上に向けた支援は、より重要となっていますので今後も支 援を継続して充実させていただきたい。 幼児教育推進事業では、保幼認小間の切れ目のない教育を目指	
							標準	中学校体験活動支援事業	学校教育課教育研究G	・ 幼児教育推進事業では、床幼島が間の切れしのない教育を日有されて支援体制を整えられています。小中学校における不登校生徒の増加が社会問題となっている現在、その前段階での教育が重要視されていますので、今後も社会的包摂の視点をもって積極的な情報 交換と教職員の育成をお願いします。
						標準	幼児教育推進事業	学校教育課教育支援G	道徳・人権教育推進事業では、県のアライメント事業と並行して中学校区と県立学校を交えて実践研究が行われ、小中高12年間を見据えた交流活動により新たな視点が生まれ、今後の推進にむけて有効な取組であると評価できます。今後も現場での教育実践がよりよい	
						標準	教職員研修事業	学校教育課教育研究G	ものとなるように実践研究を進めていただければと思います。	
						標準	道徳·人権教育推進事業	学校教育課教育研究G		
					家庭・地域の教育力の向上	標準	子育て学習展開事業	生涯学習課社会教育G	子育て学習展開事業では、今年度も予算額と決算額の執行状況から、中止や規模縮小となった講座や講演も多かったのではないかと推察します。その 中での活動実績として、保育園等で実施された家庭教育出前講座や、小中学校での家庭での学習に関する指導啓発講演を実施され、参加した保護者にとっては心の支えや子育てへのヒントを得るよい機会になったと評価できます。 全国的に小中学生の不登校生徒の増加が問題となっており、家庭教育の重要性が高まっている中、「子育て」に関する学びを保護者に提供するとともに、子どもを見守る祖父母世代が地域全体で支えていく学びの仕組みづくりは、これからの子育てに関する在り方として大切なことです。今後もできる限りの機会を提供して取り組んでいただきたいと思います。	

教育委員会の事務に関する点検・評価 意見記入シート(廣島朗氏)

	施策の大綱	基本施策	施策に対する意見		施策の方向	区分	事業名	課グループ名	施策の方向(事業)に対する意見
						主要	個の学び支援事業(小学校)	学校教育課学事教職員G	個の学び支援事業では、特別な支援を必要とする児童生徒が安心して安全に自立した学校生活を送ることができるよう、学校の状況に応じて介助員、生活支援員、学習生活相談員や看護師を適切に配置され、個別の指導計画等の支援情報が適切に引継ぎされているこ
						主要	個の学び支援事業(中学校)	学校教育課学事教職員G	とは評価できます。特別な支援を必要とする生徒が増加している中、 支援を必要とする生徒の保護者の不満要因や声を受け止め、切れ 目ない支援体制の確立にむけて今後もさらに教育委員会としてご尽 力いただきたいと考えます。
						主要	生活困窮者自立支援事業(学習支援事業)	学校教育課教育支援G	生活困窮者自立支援事業では、対象者を長期欠席者や外国人児 童生徒まで拡大し、土曜日の通常開催に加えてテスト対策教室、体 験教室など、手厚く自立支援を行っていることは評価できます。一方 では主体的に進路選択できる力が必要となる児童生徒に対し、その
						主要	少人数教育推進事業	学校教育課学事教職員G	家庭への参加理解協力を促す案内や啓発を、根気よく行っていただきますようお願いします。 少人数教育推進事業では、過密学級を解消するために小中学校に講師を配置し、児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導を実現さ
					一人ひとりの学びを支えるきめ細 かな教育の推進	主要	校務支援システム事業	学校教育課学事教職員G	れ、講師を対象とした「ステップアップ研修」や「講師研修」により資質 向上を図られていて評価できます。教職員の確保は全国的にも課題 となっている折ですが、今後もできる限り確保して継続実施していた だきたいと考えます。
				事		標準	適応指導教室事業	学校教育課教育研究G	ではいてなるよう。 校務支援システム事業では、令和5年4月よりシステムの本格運用 を開始され、システム活用に関する研修会やアンケート調査等を実 施された。成果指標である会議教削減や総勤務時間縮減について は、適正な運用と教職員のスムーズな利活用のもとで初めて実現で
施策				務事		標準	生徒指導充実事業	学校教育課教育研究G	きる内容であることから、次年度以降の実績に現れるものと期待します。 その他、標準事業である適応指導教室事業、生徒指導充実事業、特別支援教育推進事業、外国人児童生徒教育支援事業では、それ
評価				業		標準	特別支援教育推進事業	学校教育課教育研究G	ぞれの対象となる児童生徒のみならず、保護者への支援もきめ細かく行っていただいて評価できます。今後も一人ひとりの児童生徒を多角的な視野で見つめ、関係者が連携して保護者を含めた支援をして
				価		標準	外国人児童生徒教育支援事業	学校教育課教育支援G	- いただきますようお願いします。
						標準	青少年健全育成費	生涯学習課社会教育G	青少年の健全育成と青少年活動の促進にむけては、亀山市関係の団体や機関等が協力し合って組織的に取り組む青少年育成市民の意味がある。
						標準	青少年総合支援センター費	生涯学習課社会教育G	会議の仕組みのもと、地域が一体となって青少年の育成に取り組んでいただいています。そして各標準事業の目的を達成するために、 それぞれの組織が満足度の高いものになるよう協議し、常に改善しな
					青少年の健全育成と青少年活動 の促進	標準	二十歳の集い開催費	生涯学習課社会教育G	がら実施されており、そのプロセスがすばらしいと思います。 今後も未来を担う青少年の育成のために、この協力体制が維持継 続できるようお願いいたします。
						標準	青少年自立支援事業	生涯学習課社会教育G	
	市民力・地域力の活 性化	市民参画・交流活動の 促進と協働の推進			市民活動の活性化と協働の推進	標準	婦人団体育成費	生涯学習課社会教育G	婦人団体育成費では、女性の活躍の場や家庭生活の向上を図るため、その団体活動を支援しています。その活動では「なでしこ健康フェスティバル」を開催して心身の健康づくりや交流親睦を図られたり、明るく住みよいまちづくりや地域に根差したボランティア活動に取り組まれたりして、市民参画交流活動に寄与されています。今後も活発に行われることを期待します。

5 課題と今後の取組

学識経験者による評価を踏まえ、令和5年度における第2次亀山市総合計画後期基本 計画に基づく施策及び各種事業について、課題と今後の取組を次のとおりまとめまし た。

施策の方向	事業名				
地域課題の解決に生かせる	地域の学び推進事業				
学びの展開					

【課題】

それぞれの講座の受講者数は計画値を大きく上回った結果となり、今後もこのような状況を継続させるためにも、かめやま人キャンパスの諸活動の発信を行うとともに、行政関連部署や各関係団体と連携し、各講座内容の更なる充実を図り、魅力ある講座を展開し、広く市民が学べる事業展開を引き続き行う必要がある。

また、かめやま人として認定された後のフォローアップやリカレント教育、サポート支援をして、安定した体制の構築を行うことが必要である。

【今後の取組】

行政関連部署や各関係団体と連携しやすい土壌を形成するため、それぞれの活動を 広く周知していく。また、かめやま人キャンパスと公民館事業を基軸に様々な学びを 提供し、各講座の内容の更なる充実を図るとともに、かめやま人認定者のフォローア ップ講座の継続、リカレント教育を行う。

施策の方向	事業名
	放課後子ども教室推進事業
学びを支える温かさあふれ	(標) 特色ある学校づくり事業 (小学校費)
る学校づくり	(標) 特色ある学校づくり事業 (中学校費)
	(標)コミュニティスクール推進事業

【課題】

放課後子ども教室推進事業については、数年先を考慮すると、運営に関わる人の高齢化や人材不足が否めない状況であり、今後も多くの地域ボランティア人材の参画が必要である。また、環境づくりの充実のため、地域の関係団体と協力・情報共有が必要である。

特色ある学校づくり事業については、学校運営委員会を中心に創意工夫がなされ、 各学校で成果がある中で、引き続きの取組継続ともに、学校教育改善の推進、地域の 歴史や文化がもつ亀山市の教育力の発揮等が求められる。

【今後の取組】

放課後子ども教室推進事業については、継続的に関係団体間の情報共有を図り、地域一体となって子どもが安全・安心に育まれる居場所づくりの充実を図る。また、各校のコーディネーターが交流できる場を設け、人材確保等に関し、必要な情報共有に努める。

特色ある学校づくり事業については、亀山市の教育力を発揮し、必要に応じた改善等を行いつつ、事業を継続する。

施策の方向	事業名
	学校施設長寿命化計画策定事業
	中学校デリバリー給食実施事業
 学びの環境の充実	中学校全員喫食制給食実施事業
子しの外先の元天	(標)施設整備費(小学校費)
	(標) 施設整備費 (中学校費)
	(標) 地場農畜産物利用推進事業

【課題】

学校施設長寿命化計画策定事業については、計画策定は完了したものの、子どもたちの豊かな学びと成長を支えるための環境を充実させていくために、市財政状況及びマンパワーを踏まえた実施計画の立案を行いつつ、その計画に基づく具体的な整備等への着手が必要である。

中学校デリバリー給食実施事業については、アンケートにおける肯定的回答の 割合も計画値を上回っている一方で、その数値の上昇に捉われず、生徒自らの食への 関心、食行動の改善や規則正しい食習慣等の実態についても合わせて検討していくこ とが必要である。また、費用面も考慮しながらも、生徒の意見を継続的に反映してい く必要がある。

中学校全員喫食制給食実施事業については、保護者の理解協力を得ながら給食利用者の満足度が高まるよう地場農産物の利用や安全な衛生管理等を意識しつつ、基本的な計画に基づき給食実施における外部調理委託仕様書を作成し、諸手続きを進める必要がある。また、施設整備として学校運営や給食配送等様々な状況を把握した上での整備が必要である。

【今後の取組】

学校施設長寿命化計画策定事業については、令和6年度に当該計画に基づく具 体案を示す実施計画を作成する予定であり、その計画の内容を踏まえ、整備に向けて それぞれ手続きを進めていく。

中学校デリバリー給食実施事業については、生徒対象のアンケートや新メニューの取り入れと併せて、献立内容の改善を行っていく。また、令和8年度には食缶搬入方式による全員喫食制給食に移行を予定しており、今後はその中で、引き続き改

善、検討等を実施することとしている。

中学校全員喫食制給食実施事業については、基本的な計画に基づき、地場農産物の利用や衛生管理等を踏まえた仕様書を作成し、配膳室等のハード整備とともに諸手続きを進める。

施策の方向	事業名			
希望をもって新しい時代に 活躍できる子どもの育成	学力向上推進事業 学校図書館支援事業 GIGAスクール構想推進事業 英語教育推進事業 (標)体育・文化活動支援事業(小学校費) (標)体育・文化活動支援事業(中学校費) (標)中学校体験活動支援事業			
	(標) 幼児教育推進事業 (標) 教職員研修事業 (標) 道徳・人権教育推進事業			

【課題】

学力向上推進事業については、「全国学力・学習状況調査」等の結果により、複数の領域(データの活用等)において課題が見られることから、教員の教科の指導方法の改善が必要であるとともに、学校での学習を個々の児童・生徒自身が主体的に取り組めているのか、この教科が好きだと思えているか、学力向上に繋がる様々な影響要因も併せて検討し、家庭学習の見直しと定着を図る必要がある。

学校図書館支援事業については、蔵書数や貸出冊数等は満たしているものの必ずしも児童・生徒の主体的な読書習慣の確立につながっているとは言えず、各校の図書担当者が、図書館司書や学校図書館活用アドバイザーと連携し、児童生徒や家庭に多様な図書館活用方法や貸出方法を啓発していく必要がある。また、小学校での授業時間以外での読書状況の割合が著しく低下しており、日常の教育活動の中で、読書を推進する取組の意識的に展開等が必要である。

GIGAスクール構想推進事業では、経済性も考慮しながらも迅速な端末等の更新、その時代、その年度、児童・生徒の年齢にあったICT活用や情報モラル教育 (人権教育や生徒指導上で問題となっているSNSの利用や生成AIの進歩等)の内容精査等が求められ、新たな視点とスピード感で常に確認・検討を行う必要がある。

英語教育推進事業では、CEFR A1レベル相当以上を達成した中学生の割合が目標値には達していない現状があり、単元ごとの評価を行うなど詳しい英語力の実態把握、担当教員等とALTが協力し魅力ある授業づくり・授業改善の実施、また関連した研修会の開催等が必要である。

【今後の取組】

学力向上推進事業については、学力向上推進計画【第4版】を着実に進め、学力向上強化週間の設置、対象児童生徒への市教委作成「亀ハタドリル」の実施、一人一台端末の持ち帰りの促進等を行い、家庭学習の充実を図るとともに、継続的に必要に応じた教職員の指導力向上及び授業改善に向けた措置を講じていく。

学校図書館支援事業については、引き続き、学校図書館アドバイザーの派遣、図書館利用促進のための読書指導や調べ方学習指導等の増加、研修会の内容等の充実等を行うとともに、様々な読書活動に対応できる貸出方法(相互貸借、電子図書等)を進める。

GIGAスクール構想推進事業では、校務用パソコンの更新、児童生徒用端末の更新など、ロードマップに沿ったICT環境整備を適切に行うとともに、必要に応じて、ICTの活用を通じた学びの向上に向けた改善・見直しを講じる。

英語教育の推進については、児童生徒が総合的な英語力を身に付けるため、児童生徒の英語力の詳細把握、ALTと連携した授業づくりや評価に関する研修等を行うとともに、その実施状況に合わせた改善・見直しを行う。

施策の方向	事業名
家庭・地域の教育力の向上	(標)子育て学習展開事業

【課題】

現在も子どもと保護者(家庭)に対しての生活習慣の確立や「かめやまお茶の間10選(実践)」、子どもの自己肯定感の向上を図るための関わりがなされている中で、重要な子育て学習支援を行いつつ、家庭や地域の意識の醸成をはかり、地域全体で子どもたちの学びの基礎力向上に繋がる取組を継続する必要がある。

【今後の取組】

引き続き家庭での学習に関する指導や啓発に関する講演等を実施しつつ、家庭・地域の教育力の向上を図るため、子どもの育みを地域全体で支えていく学びの仕組みづくりを進める。

施策の方向	事業名			
一人ひとりの学びを支える きめ細かな教育の推進	個の学び支援事業 (小学校)			
	個の学び支援事業 (中学校)			
	生活困窮者自立支援事業(学習支援事業)			
	少人数教育推進事業			
	校務支援システム事業			
	(標) 適応指導教室事業			
	(標)生徒指導充実事業			
	(標) 特別支援教育推進事業			
	(標) 外国人児童生徒教育支援事業			

【課題】

個の学び支援事業については、今後も特別な支援が必要な児童の増加が見込まれるため、児童の実態や支援情報の引継ぎ等切れ目ない支援体制の確立に向けた関係部署との連携、専門職のスキルや資質向上のための研修機会の確保、介助員や生活支援員、看護師等の適切な配置と人材確保等が必要である。

生活困窮者自立支援事業については、主体的に進路選択できる力が必要となる 児童生徒に対し、その家庭への参加理解協力を促す案内や啓発を、根気よく行う必要 があるとともに、その教室にかかる講師・スタッフを増やす必要もある。

少人数教育の推進については、県下全体的に講師人材の確保が難しい状況があり、 臨時免許で任用することが増加傾向にある中で、これらの講師への精神的な不安軽減 も継続していくことが必要となる。

校務支援システム事業については、教職員一人あたりの総勤務時間の削減時間(令和3年度比較)の目標値からはまだ半数近い実績値にとどまっている中で、教職員向けの研修会を実施しながら、教職員の業務改善につながるよう、委託業者と細かな調整が必要である。

【今後の取組】

個の学び支援については、にじいろノートや個別の指導計画を活用し、支援情報の切れ目ない引き継ぎ、校長会及び特別支援教育コーディネーター研修等での周知徹底等を行うとともに、介助員・生活支援員及び学習生活相談員等への指導助言が行える体制を整える。

生活困窮者自立支援事業については、教室の状況に応じて、対象者や家庭にチラシを配布し、周知啓発を行うとともに、必要に応じて、対象児童生徒の学習習慣の確立と学力向上に向けた改善・見直しを講じていく。

少人数教育の推進については、教職員指導員巡回による授業指導や「ステップ・アップ研修会」「講師研修」などによる資質向上、授業力向上の取組を継続していく。

校務支援システム事業については、引き続き教職員研修を実施しつつ、委託業者と の調整を速やかに進める。また、学校文書のデータ化を進めるとともに、その他の校 務でシステムにより効率化を図れる業務の検討を進める。

施策の方向	事業名		
青少年の健全育成と青少年 活動の促進	(標)青少年健全育成費(標)青少年総合支援センター費(標)二十歳の集い開催費(標)青少年自立支援事業		

【課題】

青少年健全育成費、青少年総合支援センター費、二十歳の集い開催費は適切な事業 開催等の支援として実施がなされている中で、今後は、中長期的に評価をしていく事 が必要である。

【今後の取組】

青少年育成市民会議などの社会教育団体による取組等については、引き続きの事業 サポートを行い、青少年が安全かつ心豊かに成長できる社会環境づくりを図るとも に、その実態把握に努め、中長期的な見通しについても視野に入れる。

施策の方向	事業名		
市民活動の活性化と協働の 推進	(標)婦人団体育成費		

【課題】

明るく住みよいまちづくりや地域に根差したボランティア活動に取り組み、市民参 画交流活動に寄与しており、今後も活発にそれぞれの事業を実施ていくことが必要で ある。

【今後の取組】

引き続き、それぞれの事業についての支援を継続的に行っていく。